

# ARIS RISK AND COMPLIANCE モデル作成の規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 18  
2022 年 5 月

This document applies to ARIS Risk and Compliance Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2022 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <https://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <https://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <https://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

## 目次

1	はじめに.....	1
2	一般表記規則 .....	2
2.1	ユーザー、ユーザー グループ、ロール .....	2
2.1.1	ARIS Risk and Compliance のロールとロール レベル.....	2
2.1.2	組織図 .....	6
2.1.3	ロール オブジェクトの属性 .....	8
2.1.4	要員オブジェクトの属性.....	8
2.1.5	ユーザー データの転送.....	9
2.2	企業資産と GRC 構造 (階層).....	10
2.2.1	アプリケーション システム タイプ階層.....	12
2.2.2	組織階層 .....	13
2.2.3	プロセス階層 .....	14
2.2.4	規定階層 .....	19
2.2.5	標準階層 .....	21
2.2.6	リスク カテゴリの階層 .....	23
2.2.7	検査者組織階層 .....	24
3	規制管理の表記規則 .....	26
3.1	規定モデル.....	26
3.2	用語モデル.....	26
3.3	規制変更管理.....	26
3.3.1	規定割当図 .....	27
3.3.2	規定オブジェクト.....	28
3.3.3	ビジネス コントロール図.....	29
3.3.4	用語オブジェクト.....	30
3.4	コンプライアンス マネジメント.....	31
3.4.1	規定割当図 .....	31
3.4.2	規制要件オブジェクト.....	34
3.4.3	コンプライアンス評価の定義オブジェクト .....	36
3.4.4	要件割当図 .....	38

4	方針管理表記規則 .....	39
4.1	プロセス内の方針 .....	39
4.2	ビジネス ルール アーキテクチャ図 .....	40
4.3	ビジネス コントロール図 .....	41
4.4	方針オブジェクト .....	42
5	調査管理表記規則 .....	46
5.1	質問票テンプレート図 .....	47
5.2	質問票テンプレート オブジェクト .....	51
5.3	セクション オブジェクト .....	53
5.4	質問オブジェクト .....	54
5.5	オプション セット オブジェクト .....	58
5.6	回答オプション オブジェクト .....	58
5.6.1	依存する質問/セクション .....	59

5.7	質問票テンプレート割当図 .....	64
5.8	調査スケジューラー オブジェクト.....	66
6	リスク マネジメントの表記規則 .....	67
6.1	プロセスと企業資産 .....	67
6.2	ビジネス コントロール図 .....	67
6.3	リスクへのモデル アサインメント.....	69
6.4	リスク オブジェクト.....	70
7	統制管理表記規則 .....	75
7.1	プロセスと企業資産にある統制 .....	75
7.2	ビジネス コントロール図 .....	76
7.3	統制オブジェクト.....	78
7.4	統制実行の定義オブジェクト.....	81
8	検査管理表記規則 .....	84
8.1	ビジネス コントロール図.....	84
8.2	統制オブジェクト.....	85
8.3	統制検査の定義オブジェクト.....	86
8.4	自動の統制検査 .....	89
9	サインオフ管理の表記規則 .....	90
9.1	プロセス階層を使用するサインオフ.....	91
9.2	規定と標準の階層を使用するサインオフ.....	92
9.3	組織階層を使用するサインオフ.....	92
9.4	検査者組織を使用するサインオフ .....	93
10	監査管理表記規則 .....	94
10.1	プロセス スケジュール モデル (監査テンプレート) .....	94
10.2	監査テンプレートとしてのタスク オブジェクト.....	97
10.3	プロセス スケジュール モデル (監査手順テンプレート) .....	99
10.4	タスク オブジェクト (監査手順テンプレート).....	102
10.5	タスク割当図 .....	104
11	用語集 .....	106
12	法的情報 .....	110
12.1	ドキュメンテーションのスコープ .....	110

## 1 はじめに

ARIS Risk and Compliance は、リスクに基づくリスク評価ワークフローなど、マスター データに基づくワークフローを生成します。一部の ARIS Risk and Compliance コンポーネントでは、調査を生成する調査スケジューラーなどのワークフローの生成に特定のオブジェクトが使用されます。

マスター データは、ARIS Risk and Compliance や、ARIS Architect などの ARIS モデリング環境で指定できます。マスター データが ARIS Risk and Compliance で指定されていない場合は、データを ARIS Risk and Compliance に転送する必要があります。詳細については、オンライン ヘルプの「ユーザーとユーザー権限の管理方法」を参照してください。ARIS モデリング環境でマスター データ (モデルとオブジェクト) を記録すると、一貫性、複雑性の低減、再利用性、評価の可能性、整合性など、さまざまなメリットがあります。ただし、これはモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ可能です。ARIS モデリング環境で関連するオブジェクトを適切に指定するために、本マニュアルの表記規則を順守することをお勧めします。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk and Compliance に転送されて、再利用することができます。

ARIS から ARIS Risk and Compliance へのデータの同期は、デフォルトの ARIS メソッドに基づきます。[ファンクション] オブジェクト タイプにユーザー定義のシンボルを使用するような、メソッドの拡張または変更は、同期アルゴリズムの調整が必要になる場合があります。この場合は、Software AG の窓口またはサポートにお問い合わせください。

### 本マニュアルの内容

本書では、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。各セクションには次の内容が含まれます。

- ARIS Risk and Compliance コンポーネントと関連要件のために使用される関連するモデル、オブジェクト、関係、属性の概要。
- ARIS モデリング環境と ARIS Risk and Compliance の間のオブジェクトと属性のマッピングを含む、個別のモデル作成の表記規則。

### 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザーの文書

## 2 一般表記規則

### 2.1 ユーザー、ユーザー グループ、ロール

#### ユーザーの中央管理

ユーザーは [ARIS 管理/ユーザー管理] ですべての ARIS 製品に対して集中管理されます。彼らには、ライセンス権限 ([ARIS Risk and Compliance (Operate)] や「ARIS Connect Viewer」など)、利用権限 ([ARCM 管理者] や「ARIS Connect 管理者」など)、データベース権限 ([ARIS Connect ガバナンス モデル] など)、ユーザー グループ ([IT 部門] など) が割り当てられます。詳細については、オンライン ヘルプの「ユーザーとユーザー権限の管理方法」を参照してください。

#### さまざまなタイプのユーザー グループ

ARIS 管理/ユーザー管理にあるユーザー グループは ARIS Risk and Compliance にあるユーザー グループとは一致しないため、ARIS Risk and Compliance で作業するユーザーの重要性は低いです。ARIS Risk and Compliance では、ユーザーは GRC ロールを表す特定のユーザー グループに割り当てられます。ARIS Risk and Compliance のユーザー グループはロールとロール レベルを使用して定義されます。ユーザー グループ ([リスク担当者グループ ドイツ] など) のロール ([リスク担当者] など) とロール レベル ([環境固有] など) が、割り当てられたユーザーの権限 (リスクとリスク評価の読取権限 など) を指定します。ユーザーは、同時に複数のユーザー グループに割り当てることができます。ユーザー グループは常に 1 つのロールのみに接続されます。ロールは 1 つのロール レベルのみに接続されます。詳細については、ARIS Risk and Compliance のオンライン ヘルプの「ロールとロール レベル」を参照してください。

#### 2.1.1 ARIS Risk and Compliance のロールとロール レベル

リスク マネジメントや統制管理など、ARIS Risk and Compliance の各コンポーネントは、管理者、所有者、評価者、監査人などのさまざまなロールを提供します。管理者ロールは、各ワークフローの準備、計画、開始を担当します。所有者ロールは、貢献するユーザーです。評価者ロールは、二重統制 (4 つの目の原則) を担当します。監査人ロールは、読取専用ですべての情報にアクセスできます。一部のコンポーネントでは、調査管理の所有者ロールに対する調査回答者など、特定のロールに対応する具体的な名前があります。ほかに、必要なロールが少ないコンポーネントもあります。たとえば、統制の実行に評価者ロールはありません。また、方針管理の承認者ロールなど、異なるロールがあるコンポーネントがあります。詳細については、オンライン ヘルプの「ユーザーとユーザー権限の管理方法」を参照してください。

以下のロール レベルを使用できます。

- **複数環境**  
ロールに基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、すべての環境に適用されます。
- **環境固有**

役割に基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、ユーザー グループが割り当てられた環境に適用されます。

▪ **オブジェクト固有**

ロールに基づいてユーザー グループに割り当てられた権限は、そのユーザー グループが割り当てられた環境のオブジェクトに適用されます。

**階層担当者**

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
階層監査人		○	○
階層担当者		○	○
階層所有者	○		

**課題管理**

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
課題監査人		○	○
課題担当者		○	○

**規制管理**

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
規定監査人		○	○
規定担当者	○	○	○
規定所有者	○		
規定評価者	○		

**方針管理**

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
方針監査人	○	○	○
方針管理者		○	○
方針所有者	○		
方針承認者	○		
方針受取人	○		

### 調査管理

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
調査監査人		○	○
調査担当者	○	○	○
調査回答者	○		
調査評価者	○		

### リスク マネジメント

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
リスク監査人		○	○
リスク担当者	○	○	○
リスク所有者	○		
リスク評価者	○		

### 損失およびインシデント管理

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
インシデント監査人		○	○
インシデント担当者		○	○
インシデント所有者	○		
インシデント評価者	○		
損失監査人		○	○
損失担当者		○	○
損失所有者	○		
損失評価者	○		

### 統制管理\*

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
統制監査人	○	○	○
統制担当者	○	○	○
統制実行所有者	○		

\*統制管理のオブジェクト固有の監査人ロールは、個別の [統制実行の定義] オブジェクトにではなく、階層要素に接続されています。階層要素は、統制の調査と統制の実行の範囲です。

### 検査管理\*

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
検査監査人	○	○	○
検査監査人 (外部)		○	○
検査担当者	○	○	○
検査者	○		
検査評価者	○		

\*検査管理のオブジェクト固有の監査人ロールは、個別の [統制検査の定義] オブジェクトにではなく、階層要素に接続されています。階層要素は、統制の調査と統制検査の範囲です。

### サインオフ管理

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
サインオフ担当者	○	○	
サインオフ所有者	○		
サインオフ評価者	○		

### 監査管理

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
監査監査人	○	○	○
監査担当者		○	○
監査所有者	○		
監査手順所有者	○		
監査評価者	○		

### 不備管理

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
不備監査人 (L1)		○	○
不備監査人 (L2)		○	○
不備監査人 (L3)		○	○
不備担当者 (L1)	○	○	○
不備担当者 (L2)	○	○	○

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
不備担当者 (L3)	○	○	○

**管理**

ロール	オブジェクト固有	環境固有	複数環境
ユーザー/ユーザー グループ管理者		○	○

## 2.1.2 組織図

ユーザーグループおよびユーザーは、[ロール] (OT\_PERS\_TYPE) および [要員] (OT\_PERS) のオブジェクトタイプを使用して組織図でモデル化します。[ロール] オブジェクトと [要員] オブジェクトの関係は、[担当する] 接続線を使用して表されます。ロールとロール レベルは、[ロール] オブジェクト (OT\_PERS\_TYPE) の [ARCM ロール] と [ARCM ロール レベル] の属性を使用して指定されます。

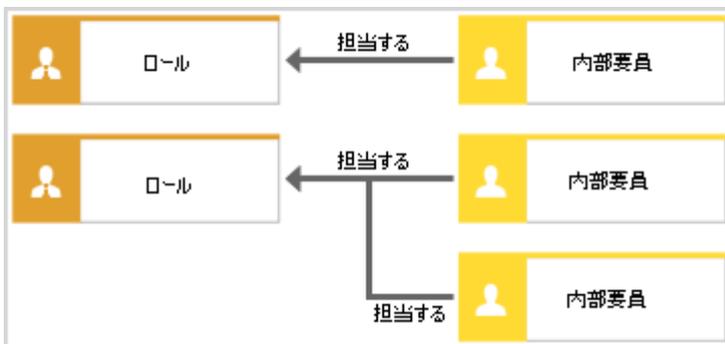


図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造

**例**

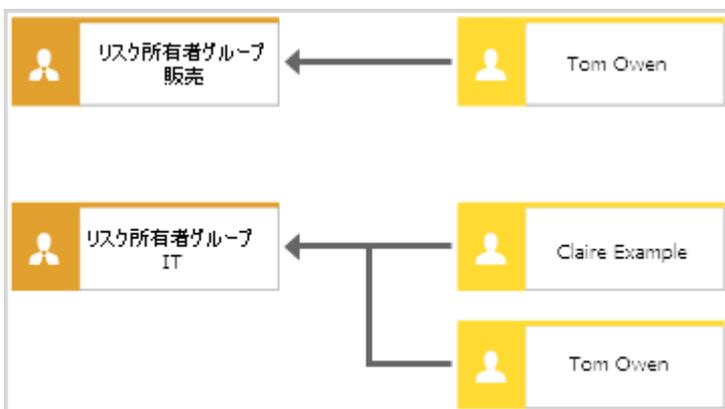


図 2: ユーザーおよびユーザー グループの構造 - 例

次のオブジェクトが ARIS Risk and Compliance で生成されます。

- オブジェクト固有のロール レベルを持つ [リスク所有者] を割り当てた [リスク所有者グループ 販売] と [リスク所有者グループ IT] のユーザー グループ。
- 2 人のユーザー。ユーザー名は [Tom Owen] と [Claire Example] です。彼らには、割り当てられたユーザー グループのロールとロール レベルがあります (= オブジェクト固有のリスク所有者)。Tom Owen は、[リスク所有者グループ 販売] と [リスク所有者グループ IT] の両方のユーザー グループに割り当てられています。

## 2.1.3 ロール オブジェクトの属性

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*
名前	AT_NAME	○
説明/定義	AT_DESC	
ARCM ロール	AT_ROLE	○
ARCM ロール レベル	AT_ROLE_LEVEL	○

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.1.4 要員オブジェクトの属性

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*
ログイン	AT_LOGIN	○
名	AT_FIRST_NAME	○
姓	AT_LAST_NAME	○
説明/定義	AT_DESC	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	○
電話番号	AT_PHONE_NUM	

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.1.5 ユーザー データの転送

[データを ARCM へ転送する] 属性 (AT\_AAM\_EXPORT\_RELEVANT) が [真] に設定されているオブジェクトのみ ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

ユーザー、ユーザー グループ、権限を管理する方法は、基本的に 2 つあります。詳細については、オンライン ヘルプの「ユーザーとユーザー権限の管理方法」を参照してください。

### 推奨される改ざん防止手順

ARIS Risk and Compliance でユーザー グループとユーザーを保守して、ARIS モデルに必要なユーザー グループを ARIS モデリング環境にインポートできます (「ARIS Risk and Compliance で管理されているユーザーグループのインポート」レポート『../handling/#/home/59238/en/1see』)。

### 改ざんが防止されない代替手順

代わりに、ARIS モデリング環境でロール、ユーザー グループ、ユーザーを保守し、ARIS Risk and Compliance に転送できます。これは、モデル作成者が誤って ARIS Risk and Compliance での機密データへのアクセス権限を付与してしまう可能性があります。ARIS Risk and Compliance の特定のオブジェクトと属性へのアクセスを検証し、必要な場合は制限することを強くお勧めします。詳細については、Software AG サポート チームにお問い合わせください。

## 2.2 企業資産と GRC 構造 (階層)

### 階層と無所属オブジェクト

組織ユニット、プロセス、システムなどの企業資産と、リスク カテゴリ、規定、検査者組織などの GRC 関連構造は ARIS Risk and Compliance の  [階層] で使用できます。資産と構造は、通常、構造化された階層になりますが、構造のない状態で存在する場合があります。後者は、[無所属オブジェクト] に表示されます。



図 3: 無所属階層要素

ARIS Risk and Compliance に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。

### オブジェクトを転送に含める

ARIS Risk and Compliance ワークフローに関連するオブジェクト（リスクや調査スケジューラーなど）で使用されている階層要素は、その上位の階層ツリーを含めて ARIS Risk and Compliance に転送されます。モデルのすべての階層要素を ARIS Risk and Compliance に転送するには、[データを ARCM へ転送する] モデル属性 (AT\_AAM\_EXPORT\_RELEVANT) に [真] を設定します。



図 4: ARIS Risk and Compliance の最上位階層要素

ARIS Risk and Compliance の階層の表記規則は以下に記載されています。データ階層の表記規則の詳細については、GDPR の ARIS アクセラレーター パッケージのみに付属する『ARIS アクセラレーターの GDPR 表記規則』マニュアルを参照してください。

## 2.2.1 アプリケーション システム タイプ階層

[アプリケーション システム タイプ図] モデル (MT\_APPL\_SYS\_TYPE\_DGM) と [アプリケーション タイプ] オブジェクト (OT\_APPL\_SYS\_TYPE) を使用して、アプリケーション システム タイプ階層をモデル化します。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。



図 5: アプリケーション システム タイプ階層

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*
名前	AT_NAME	○
説明/定義	AT_DESC	

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.2.2 組織階層

[組織図] モデル (MT\_ORG\_CHRT) と [組織ユニット] オブジェクト (OT\_ORG\_UNIT) を使用して、組織階層をモデル化します。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

オブジェクト固有の統制監査人と検査監査人は、階層タイプを使用してモデル化することができます。これらのロールには、階層に割り当てられた統制の実行と統制検査への読取権限があります。オブジェクト固有の検査者ロールと階層との間の関係は、[属する] 接続線 (CT\_WRK\_IN) を使用して表されます。

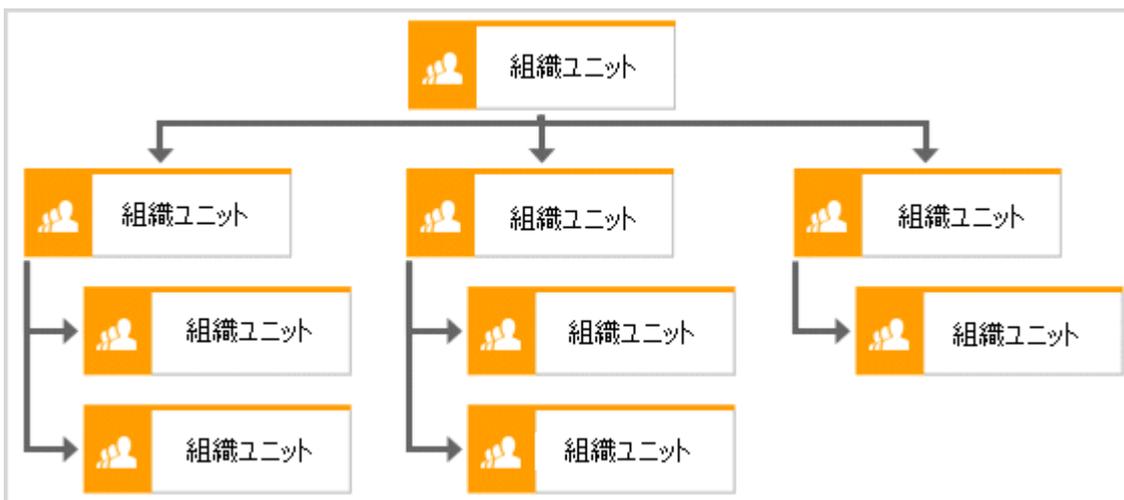


図 6: 組織階層構造

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『90ページ 』に使用されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.2.3 プロセス階層

次のプロセス モデルは、プロセス階層を設定するために使用できます。

モデル名	モデル タイプ名
付加価値連鎖図	MT_VAL_ADD_CHN_DGM
EPC	MT_EEPC
EPC (マテリアル フロー)	MT_EEPC_MAT
EPC (列表示)	MT_EEPC_COLUMN
EPC (行表示)	MT_EEPC_ROW
EPC (テーブル表示)	MT_EEPC_TAB
EPC (水平テーブル表示)	MT_EEPC_TAB_HORIZONTAL
ファンクション ツリー	MT_FUNC_TREE
BPMN process diagram (BPMN 2.0)	MT_BPMN_PROCESS_DIAGRAM
Enterprise BPMN process diagram	MT_ENTERPRISE_BPMN_PROCESS

ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。以下に挙げるのは、さまざまな表記（付加価値連鎖、EPC、BPMN）を使用したプロセス ランドスケープのモデル化の例です。

オブジェクト固有の統制監査人と検査監査人は、階層タイプを使用してモデル化することができます。これらのロールには、階層に割り当てられた統制の実行と統制検査への読取権限があります。オブジェクト固有の監査人ロールと階層との間の関係は、[決定する] 接続線 (CT\_DECD\_ON) を使用して表されます。

## 付加価値連鎖図によるプロセスのモデル化

プロセス概要は、しばしば [付加価値連鎖図] モデル (VACD) と [ファンクション] オブジェクト (OT\_FUNC) を使用してモデル化されます。ARIS Risk and Compliance では、VACD のファンクションはプロセス階層要素に変換されます。



図 7: 付加価値連鎖図

オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用して表されます。次のモデル タイプは、VACD にある 1 つの [ファンクション] オブジェクト タイプにアサインできます。

目標	アサインされるモデル タイプ
Subprocess [付加価値連鎖]	付加価値連鎖図
ほかのアサインされたオブジェクトの表示	ファンクション割当図

## イベント駆動のプロセス連鎖によるプロセスのモデル化

[イベント駆動のプロセス連鎖] モデル (EPC) と [ファンクション] オブジェクト (OT\_FUNC) を使用して、企業のプロセスを記述できます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。ARIS Risk and Compliance では、EPC のファンクションはプロセス階層要素に変換されます。

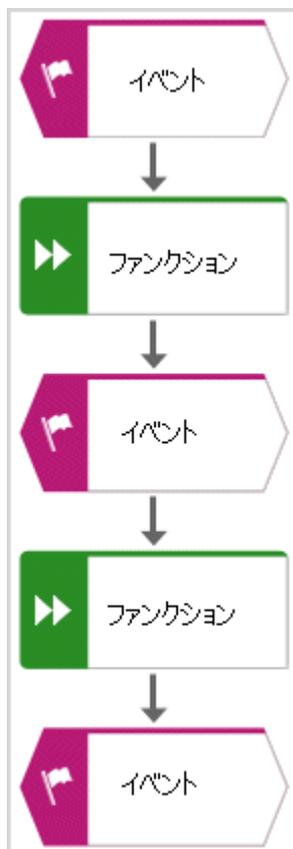


図 8: イベント駆動のプロセス連鎖 1

このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職、ロール、アプリケーション システムなど）を補足することができます。

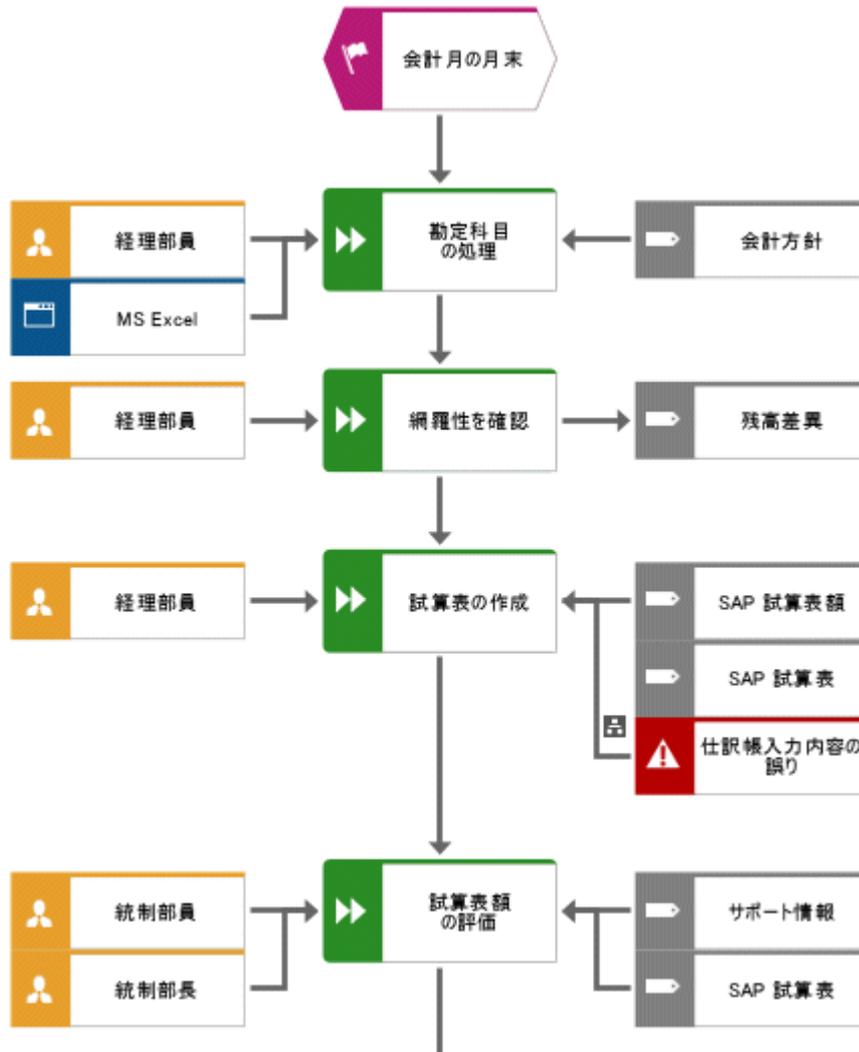


図 9: イベント駆動のプロセス連鎖 2

### ファンクション割当図によるプロセス詳細のモデル化

プロセス図を簡素に保つには、サブプロセスを作成するか、[ファンクション割当図] モデル (MT\_FUNC\_ALLOC\_DGM) などのモデルのアサインメントを使用してファンクションに追加オブジェクトをアサインします。次のモデル タイプは、EPC にある 1 つの [ファンクション] オブジェクト にアサインできます。

目標	アサインされるモデル タイプ
Subprocess	イベント駆動のプロセス連鎖
ほかのアサインされたオブジェクトの表示	ファンクション割当図



図 10: ファンクション割当図

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ 関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『90ページ 』に使用されま す。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

ビジネス プロセス モデリング表記法 (BPMN) によるプロセスのモデル化

BPMN を使用して、ビジネス プロセスを記述できます。これは、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。ARIS Risk and Compliance では、BPMN のタスクはプロセス階層要素に変換されま  
す。

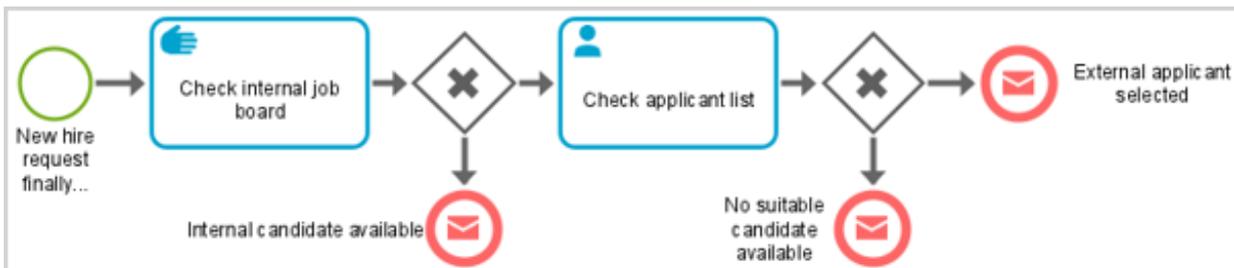


図 11: Enterprise BPMN process diagram

リスク、統制、調査スケジューラーなどの GRC オブジェクトに [Call activity] オブジェクトを割り当てることはでき  
ません。Call activity は、ほかでモデル化された要素 (単一のタスクまたはプロセス) を表し、その要素を呼び出  
すためだけに使用されます。重複を避けるために、[Call activity] オブジェクトは無視されます。

## 2.2.4 規定階層

規制階層は、法律や規制の性質を持つその他の法律行為のモデル化に使用されます。そのような規定は、組織の規制階層を生成します。[規定モデル] モデル タイプ (MT\_REGULATION\_MODEL) と、[規定] (OT\_REGULATION)、[規定の章] (OT\_REGULATION\_CHAPTER)、[規定の条項] (OT\_REGULATION\_CLAUSE) を使用して、規定をモデル化します。これらのオブジェクト間の階層は、[含む] 接続線を使用して表されます。規定は、[規定カテゴリ] オブジェクト (OT\_REGULATION\_CATEGORY) を使用して、構造化することができます。規定間の階層は、[含む] 接続線を使用して表されます。ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

オブジェクト固有の統制監査人と検査監査人は、階層タイプを使用してモデル化することができます。これらのロールには、階層に割り当てられた統制の実行と統制検査への読取権限があります。オブジェクト固有の監査人ロールと階層との間の関係は、[所有者である] 接続線 (CT\_IS\_OWN) を使用して表されます。

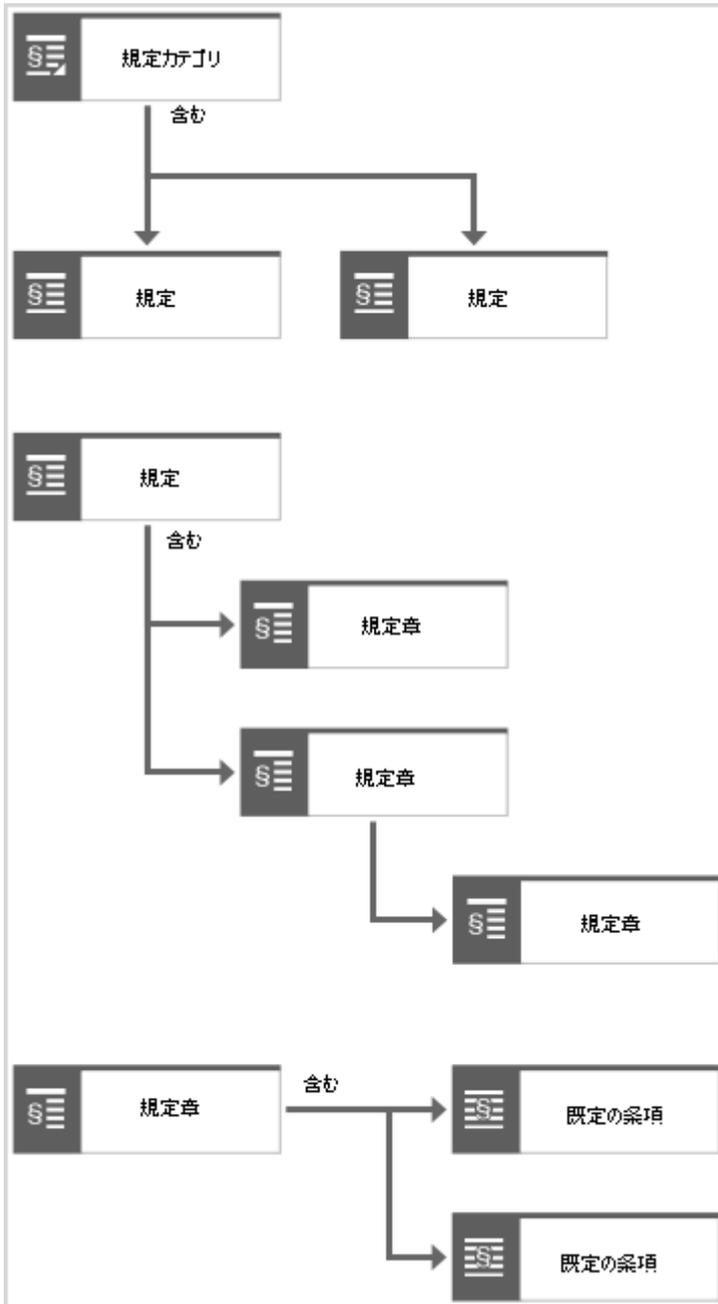


図 12: 規定階層構造

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
概要説明	AT_SHORT_DESC		
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『90ページ』に使用されます。
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		規制変更管理 『26ページ』に使用されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.2.5 標準階層

標準階層は、ユース ケースに必要なオブジェクト構造のモデル化に使用されます (例:

- 個別のアカウントへのリスクの影響を特定するアカウント プランなどのリスク マネジメントや
- 貸借対照表構造でサインオフを実行するためのアカウント プランなどのサインオフ管理)。

[用語モデル] モデル タイプ (MT\_TECH\_TRM\_MDL) と [用語] オブジェクト (OT\_TECH\_TRM) を使用して、規定階層をモデル化します。[用語] オブジェクトの [規定と標準] 属性

(AT\_AAM\_ANNUAL\_ACCOUNTS\_ITEM) を使用して、標準を一意に指定します。この属性を [用語] オブジェクトまたは [用語] モデルに使用します。モデルで使用された場合、そのモデルのすべての [用語] オブジェクトは標準としてみなされます。オブジェクト間の階層は、[持つ] または [含む] の接続線を使用して表されます。

ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

オブジェクト固有の統制監査人と検査監査人は、階層タイプを使用してモデル化することができます。これらのロールには、階層に割り当てられた統制の実行と統制検査への読取権限があります。オブジェクト固有の監査人ロールと階層との間の関係は、[所有者である] 接続線 (CT\_IS\_OWN) を使用して表されます。

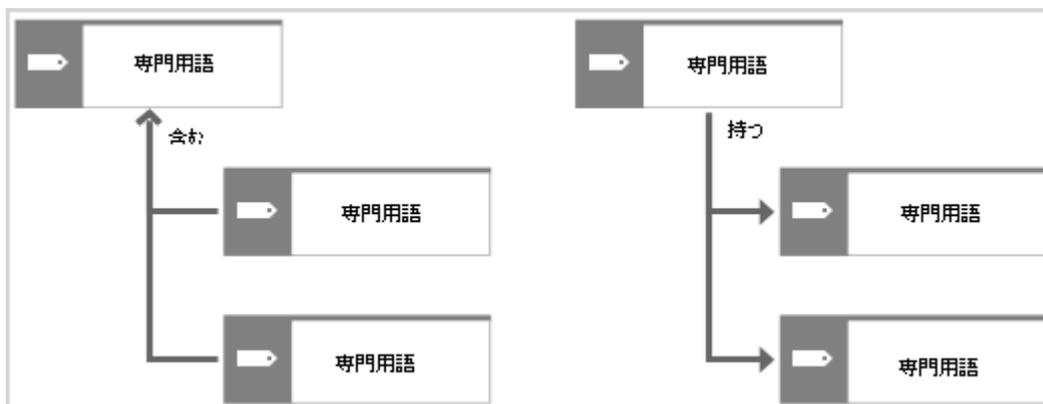


図 13: 標準階層構造

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
概要説明	AT_SHORT_DESC		
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF _RELEVANT		サインオフ管理 『90ページ』に使用されます。
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		規制変更管理 『26ページ』に使用されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.2.6 リスク カテゴリの階層

[リスク図] モデル (MT\_RISK\_DGM) と、[リスク] (OT\_RISK) と [リスク カテゴリ] (OT\_RISK\_CATEGORY) のオブジェクト タイプを使用して、リスク カテゴリ階層をモデル化します。リスクは分類できます。リスクは、[含む] 接続線を使用して、カテゴリの下位にすることができます。カテゴリは、[含む] 接続線を使用して、他のカテゴリの下位にすることができます。ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。

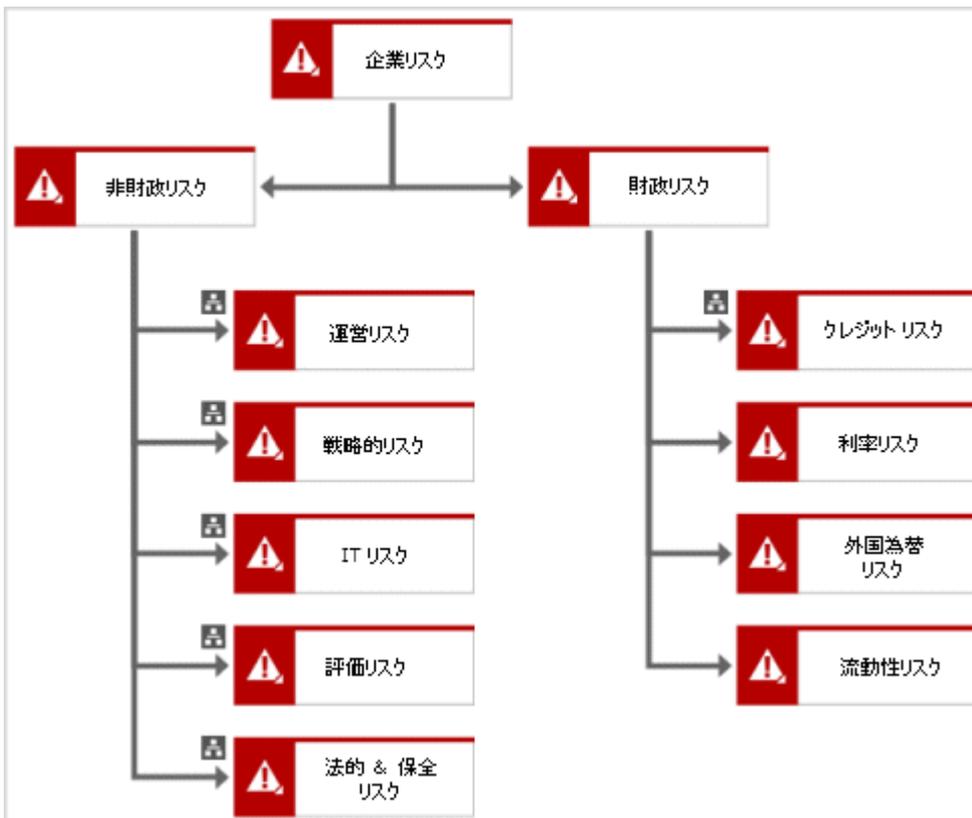


図 14: リスク階層構造

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 2.2.7 検査者組織階層

統制検査者のユーザー グループは、オプションで統制検査者間の協力を強化するために概要を見やすくし、検査管理者用の概要を最適化するために検査者組織をグループすることもできます。検査者組織は、複数の検査者グループが一緒に作業する統制検査の評価などに使用されます。検査者組織のユーザー グループの統制検査者は、その検査者組織の他のユーザー グループや、下位の検査者組織階層のすべての統制検査を閲覧できます。[組織図] モデル (MT\_ORG\_CHRT) と [組織ユニット] オブジェクト (OT\_ORG\_UNIT) を使用して、検査者組織をモデル化します。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用して表されます。統制検査者ユーザー グループと統制検査組織は、[属する] 接続線で接続されます。ARIS Risk and Compliance では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各階層要素の上位階層要素は 1 つしかありません。そのため、検査者組織要素は、各組織ユニットごとに ARIS Risk and Compliance で作成されます。

オブジェクト固有の統制監査人と検査監査人は、階層タイプを使用してモデル化することができます。これらのロールには、階層に割り当てられた統制の実行と統制検査への読取権限があります。オブジェクト固有の監査人ロールと階層との間の関係は、[属する] 接続線 (CT\_WRK\_IN) を使用して表されます。

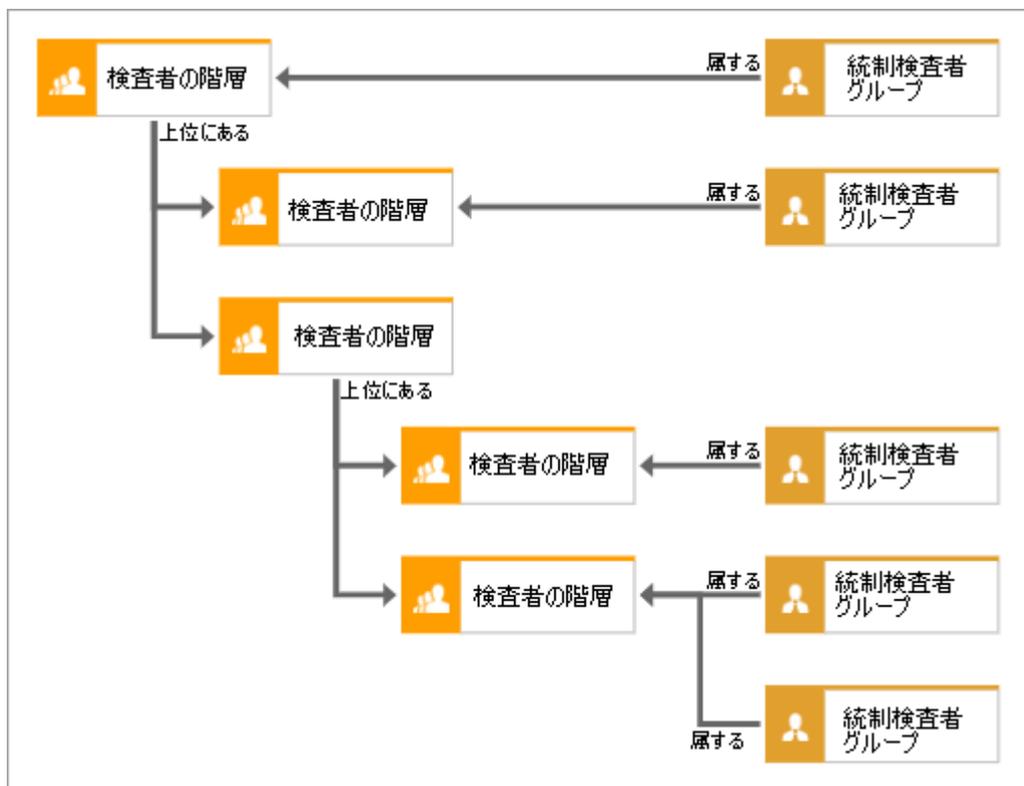


図 15: 検査者組織

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	

ARIS 属性	API 名	M*	注意
説明/定義	AT_DESC		
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT		サインオフ管理 『90ページ』に使用されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 3 規制管理の表記規則

### 規制管理の構成

- 有効期間中の関連規定の識別と構造化。
- 規定の結果としての規制要件の識別と説明。
- 規定または関連要件の変更のスケジュールされた評価（規制変更管理『26ページ』）。
- 識別された規制要件を使用する、コンプライアンスのスケジュールされた評価（コンプライアンス マネジメント『31ページ』）。

規制管理ワークフローは、規定以外のアカウント プラン、強制力のない基準、フレームワークなど、その他の標準や基準の評価にも役立ちます。

### 3.1 規定モデル

規定と規定階層のモデル作成の原則の詳細については、「規定階層」『19ページ』を参照してください。

### 3.2 用語モデル

アカウント プランなど、標準と標準階層のモデル作成の原則の詳細については、「標準階層」『21ページ』を参照してください。

### 3.3 規制変更管理

規制変更管理の目的は、規定の変更を定期的に確認し、その結果としてのアクションを特定して、担当者への通知と適切な行動を確実にすることです。評価関連としてマークされた規定と標準について、規制の変更評価タスクが期日に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。規制変更管理の中心的なオブジェクトは、規定オブジェクト（規定、規定の章、規定のオブジェクト条項）です。アカウント プランや強制力のない基準などの標準については、用語オブジェクトを使用することもできます。

### 3.3.1 規定割当図

[規定割当図] モデル (MT\_REGULATION\_ALLOCATION\_DIAG) を使用して、[規定] オブジェクト (OT\_REGULATION) の変更や更新について確認を担当するユーザー グループを割り当てます (規制変更管理)。規定所有者グループと規定との間の関係は、[所有者である] 接続線を使用して表されます。規定の評価を担当するユーザーは、規定所有者グループ『2ページ』に割り当てられている必要があります。

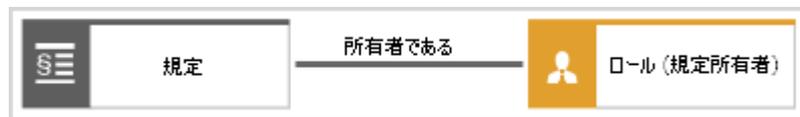


図 16: 規定割当図 - ロールと規定

#### オブジェクト間の関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
ロール	所有者である	規定	(規定所有者のロールを持つ) ユーザー グループを規定に割り当てます。

### 3.3.2 規定オブジェクト

[規定] オブジェクト (OT\_REGULATION) を使用して規定をモデル化します。詳細については、標準階層『21 ページ』のモデル化を参照してください。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されている規定モデルに関連付けられた規定が ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		規定に評価に関係するものとしてマークを付けます。これによって、ここで設定する属性と、「階層所有者」のロールを持つ 1 つのグループの割り当てが必須になります。
評価アクティビティ (アクティビティ)	AT_REVIEW_ACTIVITY		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_REVIEW_FREQUENCY	(○)	評価を実行するインターバルが示されます。規定に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED		手動で作成されたレビューが規定で許可されるかどうかを示します。[評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。
評価実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	(○)	階層所有者が評価を処理するために使用できる日数を示します。規定に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の開始日 (開始日)	AT_REVIEW_START_DATE	(○)	評価が生成される最初の日付を示します。規定に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の終了日 (終了日)	AT_REVIEW_END_DATE		評価が生成される最後の日付を示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 3.3.3 ビジネス コントロール図

[ビジネス コントロール図] モデル (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) を使用して、[標準] オブジェクト (OT\_REGULATION) の変更や更新の評価を担当するユーザー グループを割り当てます (規制変更管理)。標準の評価を担当するユーザーは、階層所有者グループ『2ページ』に割り当てられている必要があります。階層所有者グループと標準との間の関係は、[所有者である] 接続線を使用して表されます。

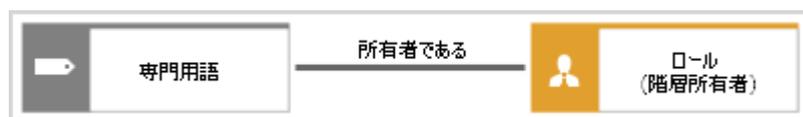


図 17: ファンクション割当図 - ロールと用語

## オブジェクト間の関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
ロール	所有者である	用語	(階層所有者のロールを持つ) ユーザー グループを標準に割り当てます。

### 3.3.4 用語オブジェクト

[用語] オブジェクト (OT\_TECH\_TRM) を使用して、リスクおよびコンプライアンスの標準をモデル化します。詳細については、標準階層『21ページ』のモデル化を参照してください。用語オブジェクトを標準として指定するには、用語オブジェクト、または関連付けられた用語モデルの [規定と標準] 属性に [真] を設定します。[データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定した用語オブジェクト、あるいは [データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定した用語モデルに関連付けられた用語オブジェクトが ARIS Risk and Compliance に転送されます。

#### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		標準に評価に関係するものとしてマークを付けます。これによって、ここで設定する属性と、「階層所有者」のロールを持つ 1 つのグループの割り当てが必須になります。
評価アクティビティ (アクティビティ)	AT_REVIEW_ACTIVITY		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_REVIEW_FREQUENCY	(○)	評価を実行するインターバルが示されます。標準に評価に関係するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED		手動で作成されたレビューが標準で許可されるかどうかを示します。[評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	(○)	階層所有者が評価を処理するために使用できる日数を示します。標準に評価に関するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の開始日 (開始日)	AT_REVIEW_START_DATE	(○)	評価を生成する最初の日付を示します。標準に評価に関するものとしてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。
評価の終了日 (終了日)	AT_REVIEW_END_DATE		評価が生成される最後の日付を示します。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 3.4 コンプライアンス マネジメント

コンプライアンス マネジメントの目的は、組織の規定要件と規制要件を特定および記述して、組織が要件に準拠しているかどうかを判断する評価を計画および開始することです。組織特有の要件の記述には [規制要件] オブジェクトを使用し、実行すべきコンプライアンス評価の記述には [コンプライアンス評価の定義] オブジェクトを使用します。コンプライアンス評価は、スケジュールが設定された時間に、またはイベント駆動によって自動的に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。

### 3.4.1 規定割当図

[規定割当図] を以下のように使用します。

- 規定、規定の章、規定の条項を規制要件に割り当てます。
- 規定、規定の章、規定の条項または規制要件を、対応するコンプライアンス評価の定義、担当者のロール、および資産階層に割り当てます (コンプライアンス マネジメント)。

[規定割当図] モデル (MT\_REGULATION\_ALLOCATION\_DIAG) を使用して、[規定] オブジェクト (OT\_REGULATION)、[規定の章] オブジェクト (OT\_REGULATION\_CHAPTER)、または [規定の条項] オブジェクト (OT\_REGULATION\_CLAUSE) に関連する [規制要件] オブジェクト (OT\_REQUIREMENT) を指定します。規定/規定の条項と規制要件との間の関係は、[参照する] 接続線を使用して表されます。

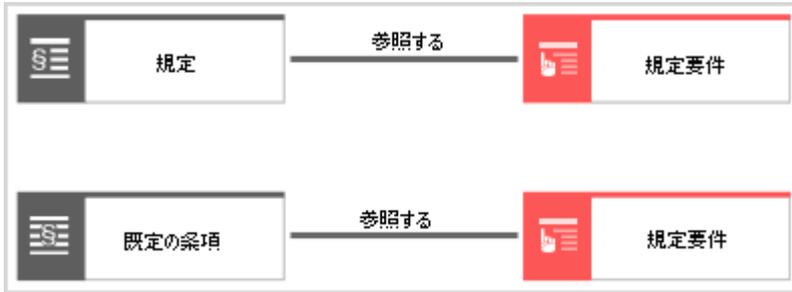


図 18: 規定割当図 - 規定オブジェクトと規制要件

### オブジェクト間の関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
規定/ 規定の条項	参照する	規制要件	1 つまたは複数の規定または規定の条項がもたらす 1 つまたは複数の規制要件を指定します。

[規定割当図] モデルと以下の接続線を使用して、規制要件に [コンプライアンス評価の定義] オブジェクト (OT\_COMPLIANCE\_ASSESSMENT\_DEF) を指定し、その [コンプライアンス評価の定義] オブジェクトを担当するユーザー グループと影響を受ける資産階層に割り当てます。

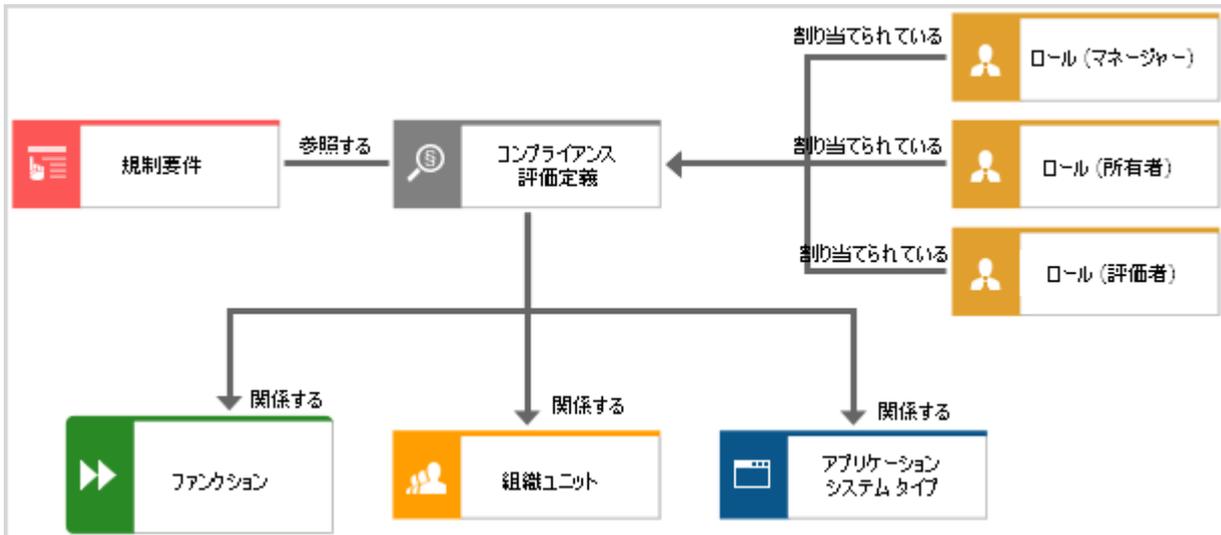


図 19: 規定割当図 - コンプライアンス評価の定義と関連オブジェクト

オブジェクト間の関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
規制要件	参照する	コンプライアンス評価の定義	規制要件に対して実行されるコンプライアンス評価を指定します。
ロール	割り当てられている	コンプライアンス評価の定義	コンプライアンス評価とそのワークフローを担当するユーザー グループを割り当てます。
コンプライアンス評価の定義	関係する	ファンクション	評価するプロセス ファンクションを指定します。
コンプライアンス評価の定義	関係する	組織ユニット	評価する組織ユニットを指定します。
コンプライアンス評価の定義	関係する	アプリケーション システム タイプ	評価するアプリケーション システム タイプを指定します。

## 3.4.2 規制要件オブジェクト

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明	AT_DESC		
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 3.4.3 コンプライアンス評価の定義オブジェクト

#### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明	AT_DESC		
評価アクティビティ	AT_GRC_ASSESSMENT_ACTIVITIES		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度	AT_GRC_ASSESSMENT_FREQUENCY	○	評価を実行しなければならないインターバルを指定します。
イベント駆動のコンプライアンス評価許可	AT_GRC_EVENT_DRIVEN_ASSESSMENTS_ALLOWED		該当するオブジェクトにアドホック評価が許可されるかどうかを指定します。
実行期限 (単位: 日)	AT_GRC_ASSESSMENT_DURATION	○	評価を実行できる日数を指定します。評価は指定された日数以内に完了する必要があります。
開始日	AT_GRC_ASSESSMENT_START_DATE	○	コンプライアンス評価の定義の有効期間の開始日を指定します。
終了日	AT_GRC_ASSESSMENT_END_DATE		コンプライアンス評価の定義の有効期間の終了日を指定します。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 3.4.4 要件割当図

[要件割当図] モデルを使用して、規制要件をリスク、方針、資産階層に割り当てます。[要件割当図] モデル (MT\_REQUIREMENT\_ALLOCATION\_DIAG) を使用して、[リスク] オブジェクト (OT\_RISK)、[経営方針] オブジェクト、または影響を受ける資産階層オブジェクトに関連する [規制要件] オブジェクト (OT\_REQUIREMENT) を指定します。

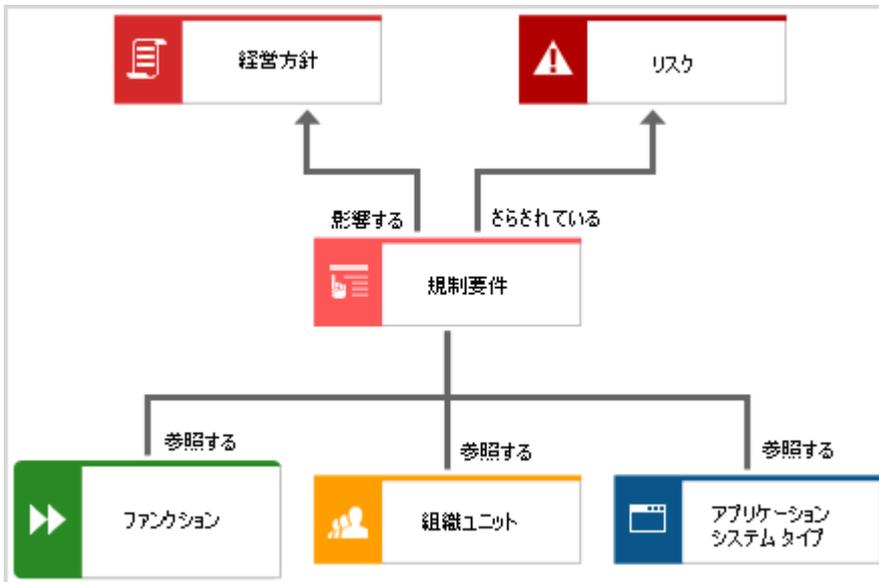


図 20: 要件割当図 - 要件と関連オブジェクト

#### オブジェクト間の関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
規制要件	さらされている	リスク	規制要件に関連する 1 つまたは複数のリスクを指定します。
経営方針	影響する	規制要件	規制要件の対象となる経営方針を指定します。
規制要件	参照する	ファンクション	規制要件の影響を受けるプロセス ファンクションを指定します。
規制要件	参照する	組織ユニット	規制要件の影響を受ける組織ユニットを指定します。
規制要件	参照する	アプリケーション システム タイプ	規制要件の影響を受けるアプリケーション システム タイプを指定します。

## 4 方針管理表記規則

方針管理の目的は、企業方針を識別、承認、公開することです。これらは、リスクを軽減するための方針でも、具体的なコンテキストがない方針でもかまいません。1 つの方針から公開されるすべてのバージョンは同じ方針の定義に基づくため、長期的な方針のライフサイクルが明らかになります。方針の定義から生成される各方針は、指定された期間の間、有効です。任意で、方針の承認ワークフローが実行される場合もあります。方針を承認する期間は、公開される方針の準備期間内に存在しなければなりません。必要な場合は、方針の公開後に、方針受取人に方針を読み、確認するよう求めることができます。方針の定義は、方針評価タスクを定期的に生成するように定義できます (ARIS バージョン 9.5 以降)。

### 4.1 プロセス内の方針

さまざまなモデル『14ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。プロセス モデル内の方針のオカレンスは、方針に規定されるプロセスまたはプロセス ファンクションを示します。

イベント駆動プロセス連鎖の例

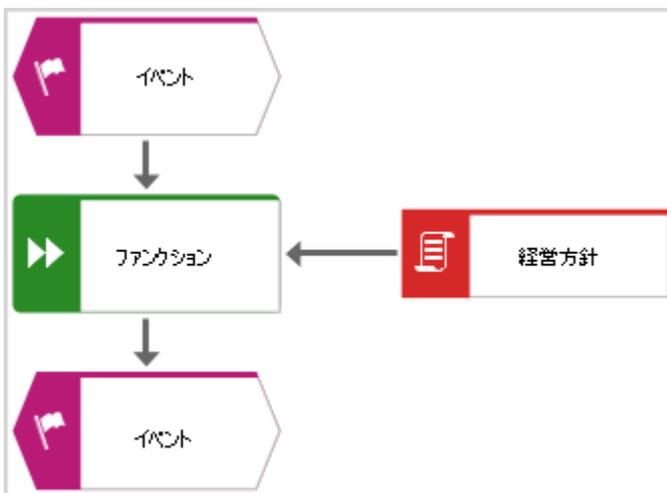


図 21: EPC

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	影響する	ファンクション	プロセス ファンクションに影響する方針が表示されません。

## 4.2 ビジネス ルール アーキテクチャ図

方針間の階層をモデル化するために、次の接続線を [ビジネス ルール アーキテクチャ図] モデル (MT\_BRD\_BUSINESS\_RULE\_ARCHITECTURE\_DIAGRAM) で使用できます。

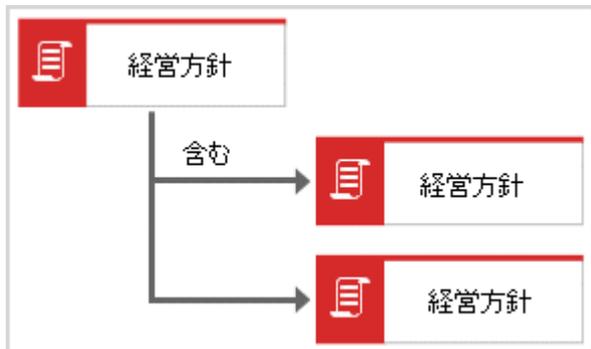


図 22: ビジネス ルール アーキテクチャ図

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	包含する	方針	方針間の階層を表します

### 4.3 ビジネス コントロール図

[ビジネス コントロール図] (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) モデルを使用して、方針の定義をモデル化します。

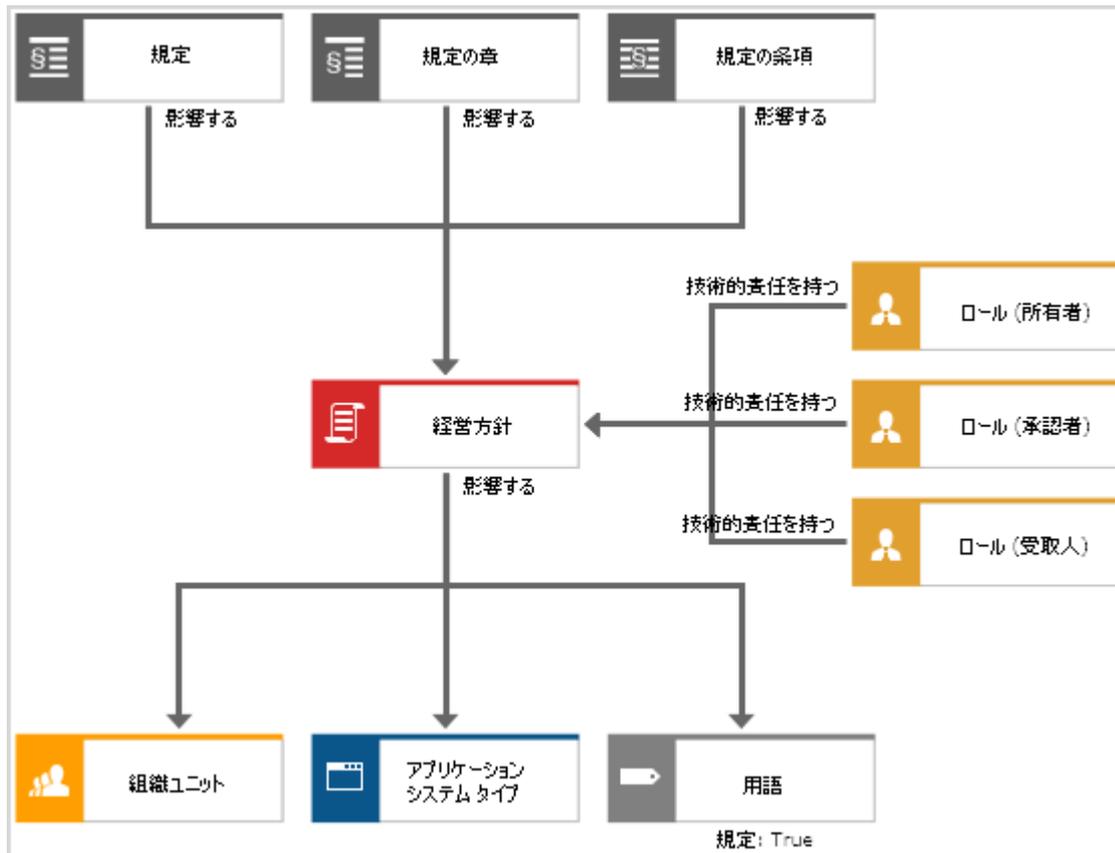


図 23: 方針管理用ビジネス コントロール図

#### 方針オブジェクトの関係

次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
ロール	技術的責任を持つ	方針	ユーザー グループを方針の定義に割り当てます。
リスク	減らされる	方針	方針定義とリスクの間に接続線を作成します。
方針	影響する	組織ユニット	方針の定義と影響を受ける組織階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	用語	方針定義と影響を受ける規定階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	アプリケーション システム タイプ	方針定義と影響を受けるアプリケーション システム タイプ階層要素の間に接続線を作成します。

## 4.4 方針オブジェクト

[方針] オブジェクト (OT\_POLICY) を使用して、方針の定義をモデル化します。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されている方針の定義が ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
方針タイプ	AT_POLICY_TYPE	○	次の 2 つのオプションから選択できます: <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ [確認が必要] (方針が公開された後に確認プロセスが開始されます)</li> <li>▪ [公開のみ] (方針が公開されるとプロセスは終了します)</li> </ul>
確認テキスト	AT_CONFIRMATION_TEXT		
確認期間 (単位: 日) (確認期間)	AT_CONFIRMATION_DURATION	(○)	方針受取人グループのユーザーが方針を読んで確認できる期間を示します。確認期間は、[確認が必要] タイプの方針にのみ関連します。
公開準備期間の開始日 (公開準備期間)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	○	方針の公開を準備する期間の開始日です。方針はこのタイミングで生成されてから、方針所有者が準備することができます。
公開準備期間の終了日 (公開準備期間)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	○	方針の公開を準備する期間の終了日です。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
承認期間の開始日 (承認期間)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	○	方針を承認する期間の開始日です。承認期間は公開準備期間中に発生する必要があります。承認はこのタイミングで生成されてから、方針承認者が実行することができます。
承認期間の終了日 (承認期間)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	○	方針を承認する期間の終了日です。承認期間は公開準備期間内に発生する必要があります。
もっとも早い公開日	AT_START_DATE_PUBLISHING_PERIOD		方針を公開できる最も早い日付。設定されていない場合、方針所有者による承認の直後から公開できます。
もっとも遅い公開日	AT_END_DATE_PUBLISHING_PERIOD	○	方針が最後に公開された日付。
データを ARCM へ転送する	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		方針の定義が ARIS Risk and Compliance に転送されるのかどうかを指定します。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

方針評価オブジェクトのその他の属性 (評価属性グループ) (ARIS 9.5 以降)

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT		方針に評価関係としてマークを付けます。
評価アクティビティ (アクティビティ)	AT_REVIEW_ACTIVITY		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_REVIEW_FREQUENCY	(○)	方針評価を実行するインターバルを示します。 方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED		手動で作成されたレビューが方針で許可されるかどうかを示します。 [評価頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。
評価実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	(○)	調査所有者が評価を処理しなければならない日数を示します。評価期間は評価の終了日で指定され、この日付までに評価を終了する必要があります。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の開始日 (開始日)	AT_START_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	(○)	方針評価を生成する最初の日付を示します。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドは必須になります。[評価頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
方針評価の終了日 (終了日)	AT_END_DATE_OF_POLICY_REVIEWS		方針評価が生成される最後の日付を示します。
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD		方針評価が関連付けられている期間を示します。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、このフィールドを指定することを推奨していますが、必須ではありません。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 5 調査管理表記規則

調査管理の目的は、スコアに基づいて調査を準備、計画、実行、比較、評価することです。調査は、事前定義された頻度で定期的に生成することも、あるいは 1 度だけ生成することもできます。リスク、プロセス、あるいは両者の組み合わせなどのコンテキストがある場合があります。その場合、調査の質問票はコンテキスト オブジェクト ページに表示されます。調査は、1 つまたは複数の調査回答者グループに対して生成できます。それぞれの調査回答者グループに、任意のグループ メンバーが回答できる調査票が 1 通届きます。

調査は、調査回答者が回答する質問を指定する質問票テンプレートに基づきます。質問の構成はセクション別にする必要があります。セクションは、さまざまな調査票テンプレートで再利用できます。質問にはいくつかの種類があります。単一選択と複数選択の質問タイプには、オプション セットに [はい] と [いいえ] などの回答オプションを指定して、再利用できます。

回答オプションのスコアは、質問票の比較または評価に使用できます。たとえば、調査、質問票、セクションに目標スコアを指定すると、目標スコアを達成した質問票を簡単に特定できます。さらに、回答オプションは、回答に応じて追加の質問やセクションをアクティブにできます (依存する質問)。

## 5.1 質問票テンプレート図

[質問票テンプレート図] モデル (MT\_SURVEY\_MGMT) と以下のオブジェクトを使用して、質問のグループ (セクション) や回答オプション セットなどの質問票の構造をモデル化します。

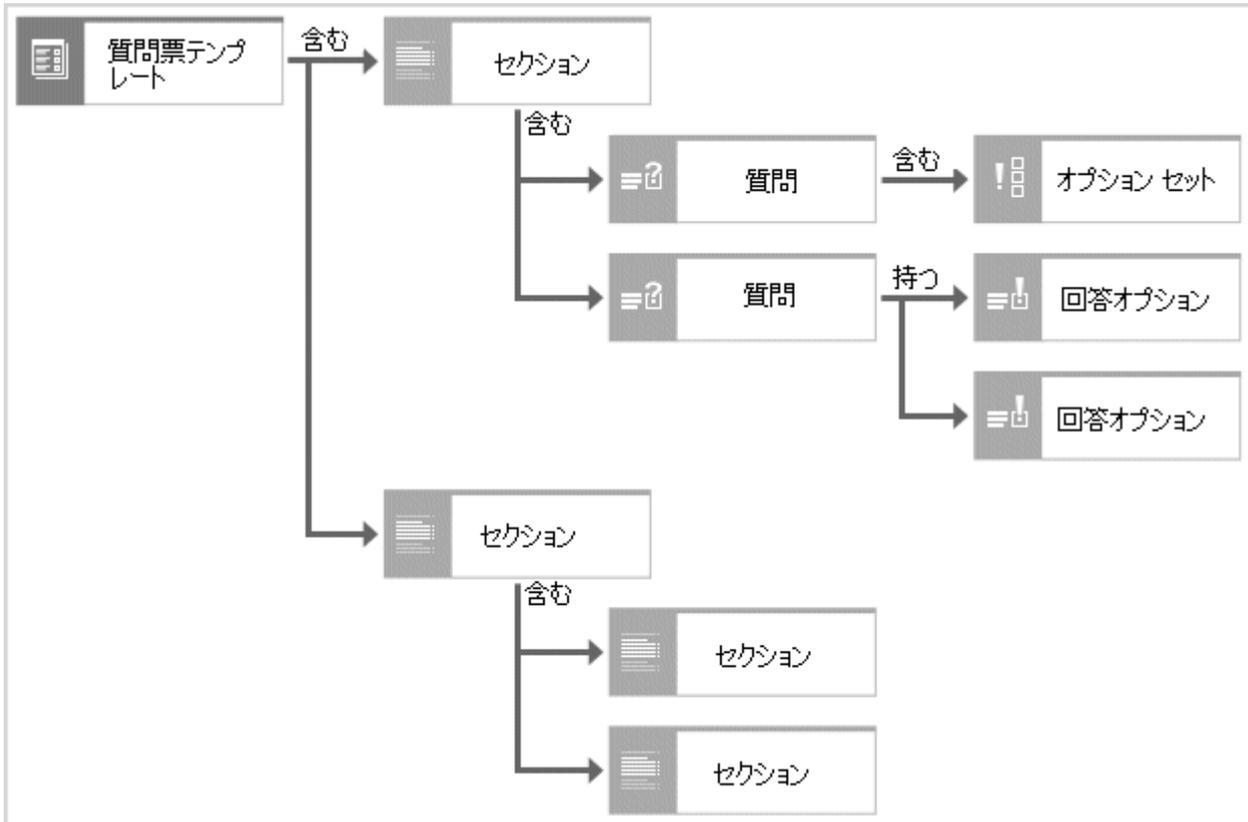


図 24: 調査管理モデル

例

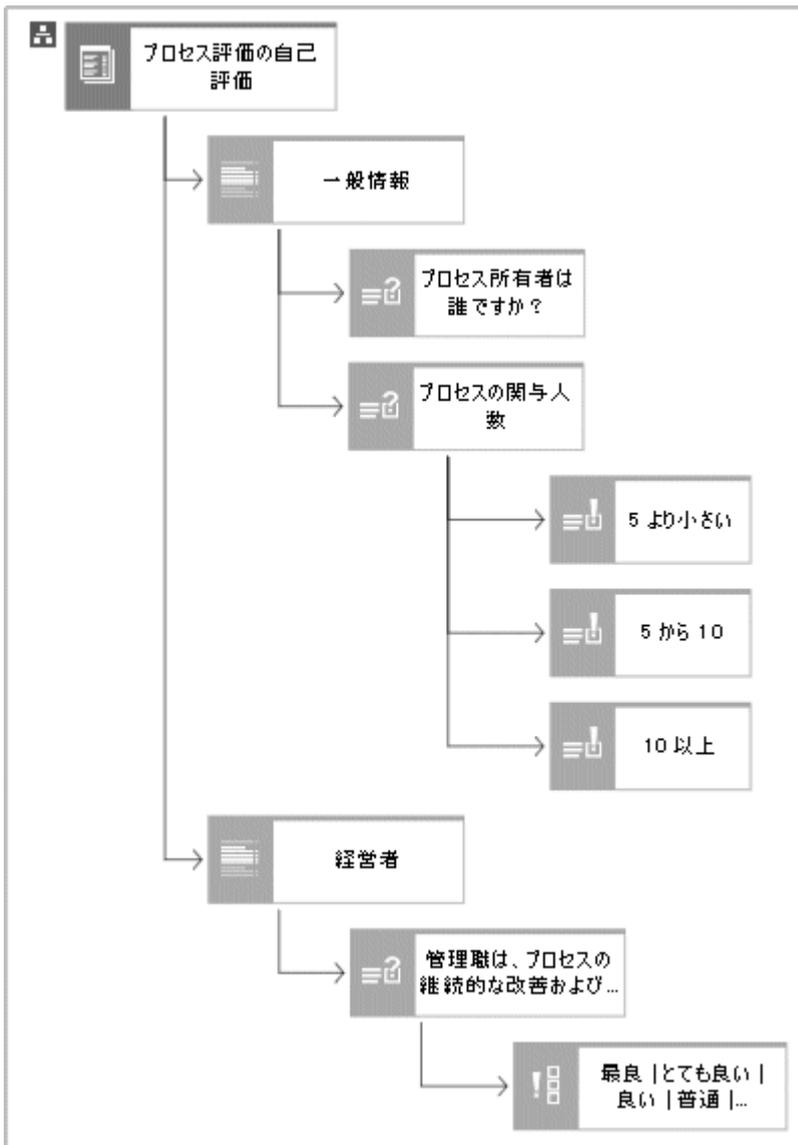


図 25: 質問票テンプレートの例 (質問票テンプレート図)

最高レベルのアイテムは質問票テンプレートです (「プロセス評価の自己評価」)。質問票テンプレートには任意の数のセクションを割り当てることができます。セクションは、任意の数のサブセクションを持つことができます。上の例では、質問票テンプレートには「一般情報」と「経営者」の 2 つのセクションがあります。質問は、質問テンプレートに直接割り当ててはできません。質問はセクションにのみ割り当てることができます。質問は 1 つのセクション内で 1 回しか存在できないことに注意してください。質問の上の図では、「プロセス所有者は誰ですか?」および「プロセスの関与人数」は [一般情報] セクションに割り当てられています。「プロセス所有者は誰ですか?」という質問は、[テキスト] 質問タイプです。つまり、この質問の回答にはテキスト ボックスが使用できます。「プロセスの関与人数」という質問は、単一選択の質問タイプです。上の図で示されているように、この質問には 3 つの可能な回答が割り当てられています。ユーザーは、3 つの回答からいずれかを選択してこの質問に回答できます。

可能な回答の組み合わせを頻繁に使用する場合は、これらの回答を 1 つのオプション セットにまとめることができます。上の例では、「管理職は、プロセスの継続的な改善および調整をどのようにして確かなものにしていきますか？」という質問に [最良]、[とても良い]、[良い]、[普通]、[劣っている] のオプション セットが割り当てられています。オプション セットは、[質問票テンプレート図] タイプの同じモデルか、すべてのオプション セットを組み合わせる別のモデルでモデル化できます。

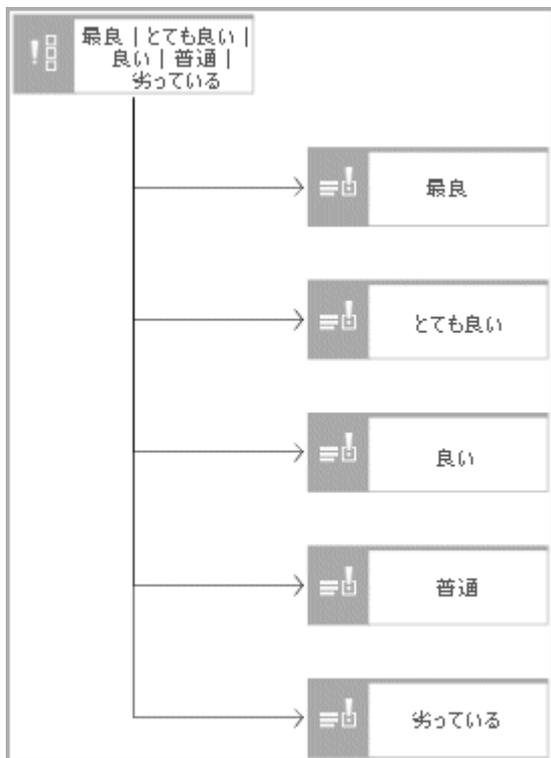


図 26: オプション セット (質問票テンプレート図)

質問票テンプレートで使用できる接続線と関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問票テンプレート	含む	セクション	質問票テンプレートは複数のセクションを持つことができます。セクションは、1 つの質問票テンプレートにのみ存在できません。セクションを別の質問表テンプレートで再使用することはできません。
セクション	含む	セクション	セクションには複数のサブセクションを含めることができます。サブセクションは、1 つの上位セクションしか持つことができません。
セクション	含む	質問	セクションには複数の質問を含めることができます。質問はセクション内で 1 回しか存在できません。ただし、異なるセクションで質問を使用することはできます。質問は、別の質問票テンプレートで使用することもできます。
質問	含む	オプション セット	質問にはオプション セットは 1 つのみ割り当てることができます。ただし、オプション セットには複数の質問を割り当てることができます。
質問	持つ	回答オプション	質問には複数の回答を割り当てることができます。回答オプションは、複数の異なる質問に割り当てることができます。
オプション セット	持つ	回答オプション	オプション セットには複数の回答オプションを含めることができます。回答オプションは、複数の異なるオプション セットに割り当てることができます。

## 5.2 質問票テンプレート オブジェクト

[質問票テンプレート] オブジェクト (OT\_SURVEY\_QUEST\_TMPL) を使用して、質問票テンプレートをモデル化します。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されている質問票テンプレートが ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
スコア	AT_SCORE_TARGET		スコア (目標) は、特定の質問票に関して達成すべき点数を指定します。
データを ARCM へ転送する	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		質問票テンプレートが ARIS Risk and Compliance に転送されるのかどうかを指定します。
段落番号の自動設定	AT_AUTOMATIC_NUMBERING		ARIS Risk and Compliance で質問票のすべてのセクションと質問に対して、段落番号の自動設定をアクティブまたは非アクティブにします。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		

ARIS 属性	API 名	M*	注意
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 5.3 セクション オブジェクト

[セクション] オブジェクト (OT\_SURVEY\_SECTION) を使用して、セクションをモデル化します。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
スコア (目標)	AT_SCORE_TARGET		スコア (目標) は、特定のセクションに関して達成すべき点数を指定します。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 5.4 質問オブジェクト

[質問] オブジェクト (OT\_SURVEY\_QUESTION) を使用して、質問をモデル化します。オプション セットと回答オプションは、質問に同時に割り当てることはできません。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
説明/定義	AT_DESC	○	[説明/定義] ARIS 属性には、生成される質問票に表示される質問テキストが含まれます。
注釈/例	AT_REM		[注釈/例] ARIS 属性には、質問テキストに関する注釈や説明を含めることができます。
メモの使用許可	AT_ANNOTATIONS_ALLOWED		調査回答者が質問に関してメモを追加できるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
文書のアップロード許可	AT_DOCUMENT_UPLOAD_ALLOWED		調査回答者が文書をアップロードして、質問に添付できるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
質問タイプ	AT_QUESTION_TYPE	○	質問タイプは質問の種類を指定します (たとえば、単一選択、テキストなど)。追加情報は以下の章に記載されています。
評価者による評価	AT_REVIEWER_RATES_ANSWER		調査評価者が調査回答者の回答を評価して、スコアを割り当てることができるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。追加情報は以下の章に記載されています。

ARIS 属性	API 名	M*	注意
任意回答	AT_OPTIONAL_QUESTION		質問がオプションであるかどうかを指定します (デフォルト設定: False = いいえ)。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 1 ARIS 文書格納リンク 2 ARIS 文書格納リンク 3 ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_1 AT_ADS_LINK_2 AT_ADS_LINK_3 AT_ADS_LINK_4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 質問タイプの属性

回答の基本プロパティは、質問タイプです。質問タイプは、質問にどのように回答できるか、またはしなければならないかを指定します。さらに、質問タイプは、質問がオプションセットまたは回答オプションに割り当てられるかについて影響を与えます。以下の質問タイプを使用できます。それらは互いに排他的です。つまり、質問は 1 つの質問タイプしか持つことができません。

- **単一選択**

単一選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから 1 つの回答のみを選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。

- **複数選択**

複数選択の質問タイプは、調査回答者は、使用できる回答オプションから任意の数の回答を選択できることを指定します。この質問タイプを選択した場合は、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。

- **テキスト**

テキスト質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に任意のテキストを入力できることを指定します。

- **数値（整数）**

数値（整数）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に整数を入力しなければならないことを指定します。

- **数値（浮動小数点）**

数値（浮動小数点）質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に浮動小数点値を入力しなければならないことを指定します。

- **日付**

日付質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付を入力しなければならないことを指定します。

- **日付範囲**

日付範囲質問タイプは、調査回答者は、質問の回答に日付範囲（～から～まで）を入力しなければならないことを指定します。

### 評価者による評価属性

[評価者による評価] 属性が設定されている場合は、調査評価者は調査回答者の回答を評価できます。ただし、これは質問が単一選択または複数選択の質問タイプでない場合のみ可能です。属性が設定されると、質問はオプション セットまたは回答オプションに割り当てられる必要があります。調査回答者が質問に回答したら、調査評価者は回答オプションから適合する回答を選択できます。これを実行するには、調査評価者は質問に回答するのではなく、調査回答者の回答を評価します。この評価により、対応する質問のスコアが決定します。

## 5.5 オプション セット オブジェクト

[オプション セット] オブジェクト (OT\_SURVEY\_OPTION\_SET) を使用して、オプション セットをモデル化します。

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 5.6 回答オプション オブジェクト

[回答オプション] オブジェクト (OT\_SURVEY\_OPTION) を使用して、回答オプションをモデル化します。

データ転送に含まれる属性

ARIS 属性	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 5.6.1 依存する質問/セクション

回答オプションと追加の質問/セクション間に依存関係を作成できます。この場合、調査回答者は追加の質問に回答するか、提供した回答に依存する追加のセクションを編集する必要があります。質問タイプが「単一選択」または「複数選択」の場合のみ追加の質問を作成できます。回答オプションで追加の質問とセクションを同時にアクティブ化できます。依存関係は、[質問票テンプレート図] モデルでモデル化されます。依存関係でサイクルをモデル化しないようにしてください。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されている質問票テンプレートが ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

### 例

例: プロセスの継続的な改善および調整を保証するために、マネージャのパフォーマンスをどのように評価しますか？

回答オプション 1: [良い] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 2: [普通] (回答する追加の質問はありません)

回答オプション 3: [劣っている] (追加の質問をアクティブ化します: 何か改善できますか?)

### [質問票テンプレート図] のオブジェクト関係

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
回答オプション	アクティブにする	質問	回答オプションで 1 つ以上の質問をアクティブ化できます。
回答オプション	アクティブにする	セクション	回答オプションで 1 つ以上のセクションをアクティブ化できます。

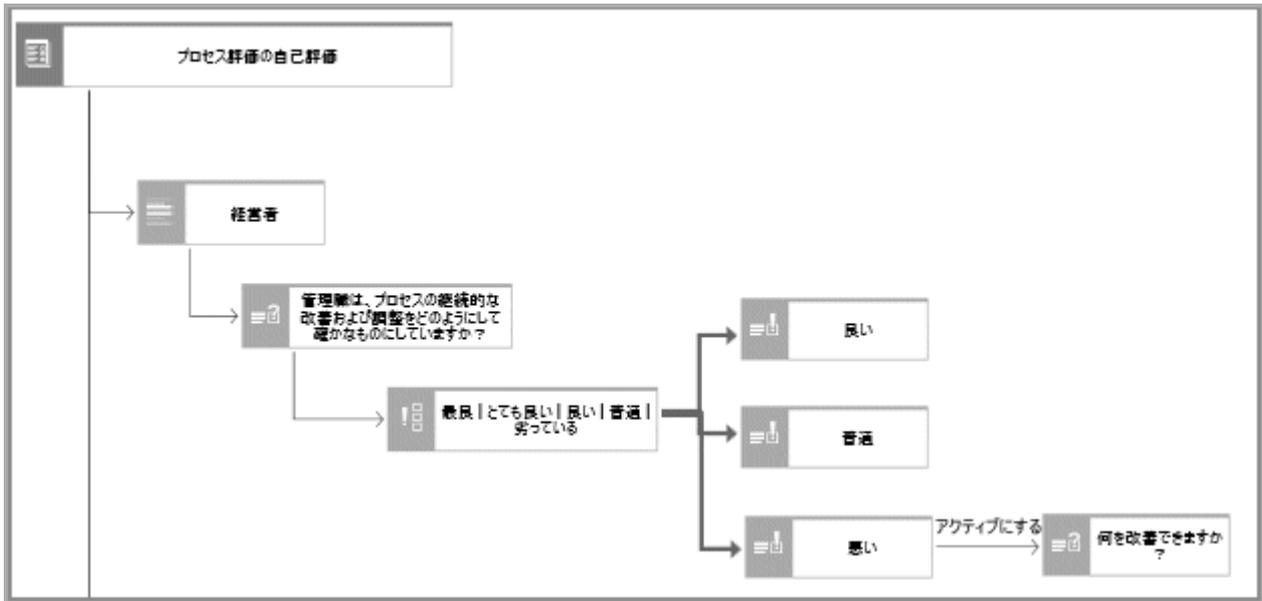


図 27: 回答オプションと質問間の依存関係

## 依存する質問/セクションのアクティブ化

### 回答オプションで常に同じ質問/セクションをアクティブ化する

回答オプションは、質問票テンプレートで複数回使用されることがよくあります（回答オプションがオプション セットに属する場合は特に）。たとえば、「劣っている」という回答で常に「何か改善できますか？」という同じ質問をアクティブ化する必要がある場合は、質問をそのオプションに接続する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

### 例

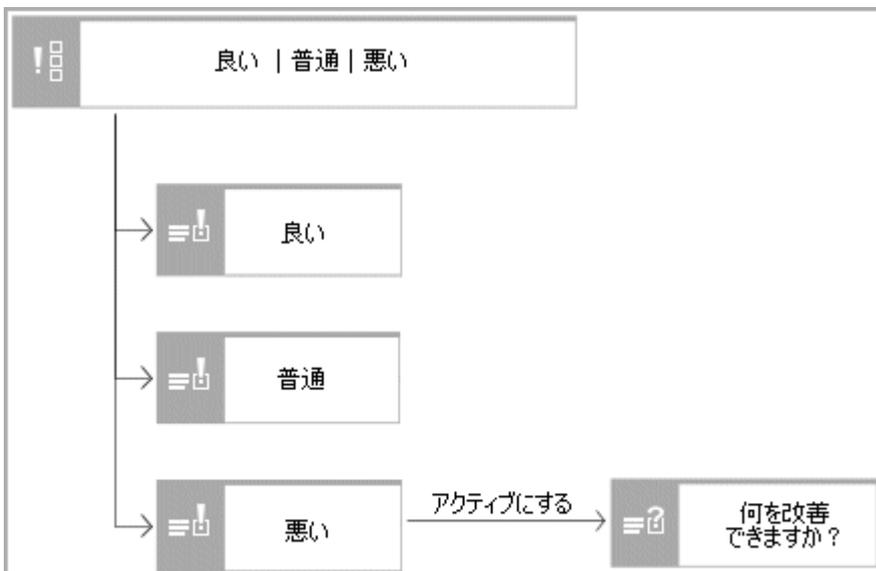


図 28: 回答オプションで常に同じ質問をアクティブ化する

回答オプションで、特定の質問のコンテキストで異なる質問/セクションをアクティブ化する

たとえば、[劣っている] という回答オプションで、コンテキストによって異なる質問をアクティブ化できます。その場合、[有効なコンテキストである] 接続線を使用して、どのコンテキストでどの依存する質問をアクティブ化するか定義する必要があります。セクションにも同様のことが言えます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
質問	有効なコンテキストである	質問	質問は、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。
セクション	有効なコンテキストである	質問	セクションは、特定の質問のコンテキストの回答オプションによってのみアクティブ化されます。

例

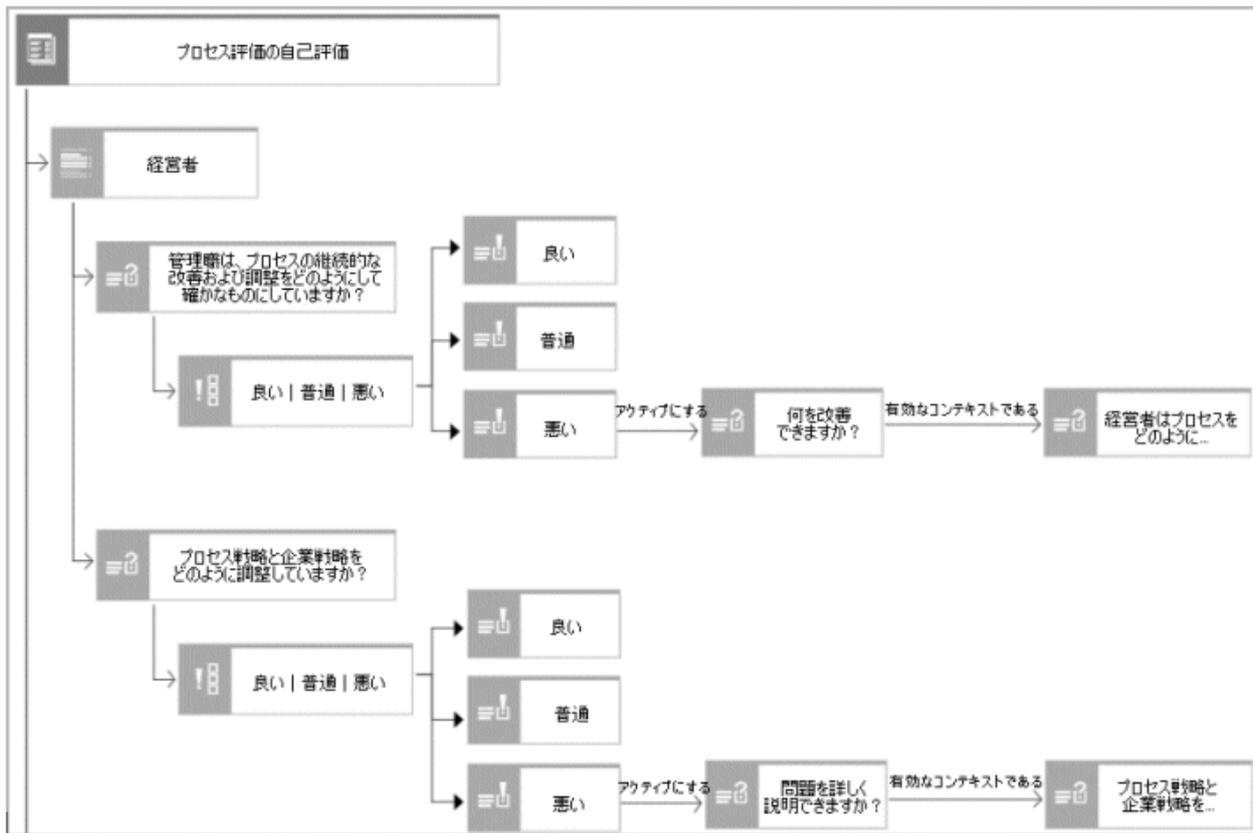


図 29: 回答オプションで異なるコンテキストで異なる質問をアクティブ化する

ARIS RISK AND COMPLIANCE での依存する質問/セクションの位置

依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk and Compliance の質問票テンプレートで定義する方法は 2 つあります。

## 有効化する質問の直下の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションを、ARIS Risk and Compliance の質問票テンプレートの構造で有効化する質問の下に表示できる場合は、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを回答オプションに接続します。

### 標準のケース

トリガーする回答オプションが複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk and Compliance の同期によって、アクティブ化した質問/セクションの対応する数のコピーが生成されます。ARIS Risk and Compliance の質問票テンプレートの構造に、アクティブ化する質問の直下にアクティブ化された質問/セクションの各コピーが表示されます。回答オプションは、アクティブ化する質問の直下に表示される、依存する質問/セクションのみ常にトリガーします。

### 特殊なケース

#### 複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする

1 つの質問の複数の回答オプションで同じ依存する質問をトリガーする場合は、依存する質問は質問の下に 1 回だけ表示されます。

#### 複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する

- セクション内の複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションはセクションの下に 1 回だけ表示されます。
- 同じ上位セクションに属する複数のセクションの複数の質問で同じ依存するセクションをアクティブ化する場合は、依存するセクションは上位セクションの下に 1 回だけ表示されます。

#### 複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する

1 つのセクションの複数の質問で同じ依存する質問をアクティブ化する場合は、依存する質問はセクション内に 1 回だけ表示されます。

### 定義した位置の依存する質問/セクション

依存する質問/セクションの位置を ARIS Risk and Compliance の質問票テンプレートの構造に指定する場合は、これを明示的にモデル化する必要があります。その場合、[アクティブにする] 接続線を使用して質問/セクションを回答オプションに接続します。また、[含む] 接続線を使用して、セクション/質問票テンプレートに質問/セクションの位置を指定します。

(依存する質問/セクションをアクティブ化する) 回答オプションが複数の質問に接続されている場合は、ARIS Risk and Compliance との同期により質問/セクションが 1 つだけ生成されます。ARIS Risk and Compliance の質問票テンプレートの構造で、依存する質問/セクションは ARIS モデリング環境のモデルと同じ位置に表示されます。各回答オプションで同じ依存する質問/セクションをアクティブ化します。例:

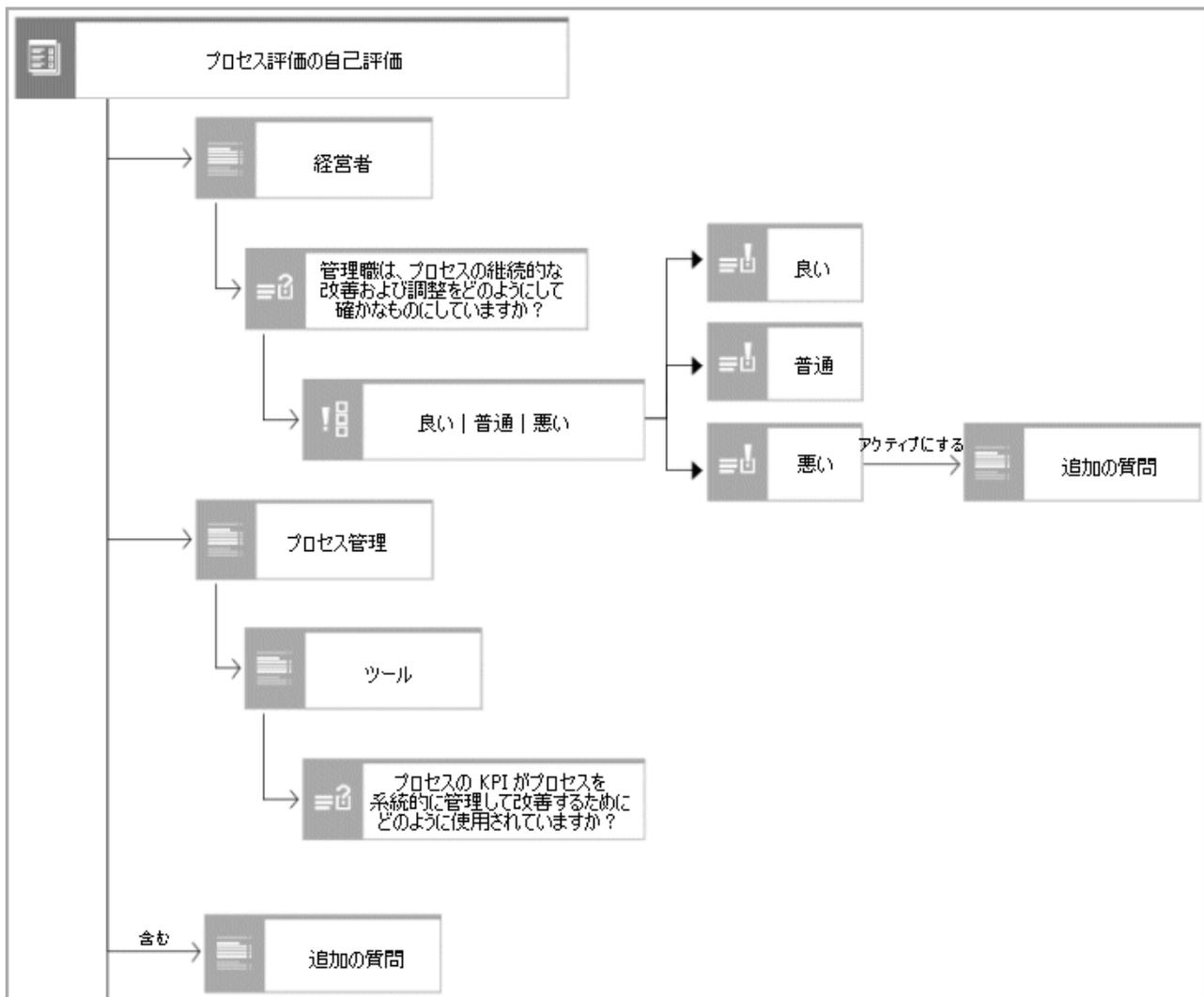


図 30: 構造の定義された位置のセクション

## 5.7 質問票テンプレート割当図

[質問票テンプレート図] モデル (MT\_SURVEY\_MGMT) でモデル化された質問票テンプレートは、ARIS Risk and Compliance での調査の生成に使用できます。生成される調査の詳細は、[質問票テンプレート割当図] モデル (MT\_SURVEY\_QUEST\_TMPL\_ALLOC) を使用してモデル化できます。[質問票テンプレート割当図] は、領域、オブジェクト、関係するユーザー グループ、調査の影響を受ける階層の情報を表します。[調査スケジューラー] オブジェクト (OT\_SURVEY\_TASK) を使用して、質問票に回答するために使用できる時間の開始日など、調査の詳細を指定します。[データを ARCM へ転送する] 属性が [真] に設定されている質問票テンプレートに割り当てられた調査スケジューラーは、その関連情報とともに ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

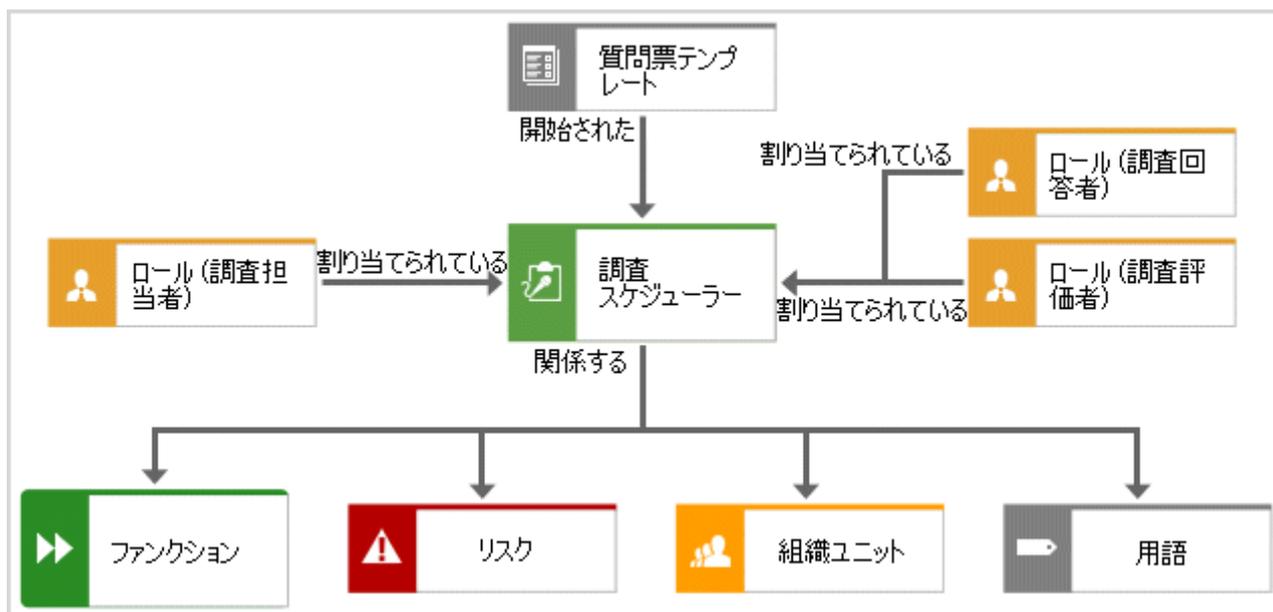


図 31: 質問票テンプレート割当図

### オブジェクトと関係

以下のオブジェクトは、調査が実行されるコンテキストとして使用できます。それらの 1 つまたは複数のオブジェクトを、[質問票テンプレート割当図] モデルにある [質問票テンプレート] タイプのオブジェクトに、[関係する] 接続線を使用して割り当てることができます。

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
タスク	OT_FUNC_INST	監査テンプレート/監査手順
リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	OT_FUNC	プロセス
組織ユニット	OT_ORG_UNIT	組織

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
用語	OT_TECH_TRM	標準
方針	OT_POLICY	方針の定義
リスク	OT_RISK	リスク
統制	OT_FUNC	統制
統制検査の定義	OT_TEST_DEFINITION	統制検査の定義
規制カテゴリ	OT_REGULATION_CATEGORY	規定
規定	OT_REGULATION	規定
規定の章	OT_REGULATION_CHAPTER	規定
規定の条項	OT_REGULATION_CLAUSE	規定

以下のオブジェクトは、調査ワークフローを指定します。そのオブジェクトは、[質問票テンプレート割当図] モデルにある [質問票テンプレート] オブジェクトタイプに、[開始された] 接続線を使用して割り当てる必要があります。

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
調査スケジューラー	OT_SURVEYTASK	調査スケジューラー

質問票テンプレートの担当者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して質問票テンプレートに割り当てられます。調査の担当者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して調査スケジューラーに割り当てられます。1 つまたは複数の調査回答者グループと調査評価者グループは、[割り当てられている] 接続線を使用して調査スケジューラーに割り当てられます。

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
ロール	OT_PERS_TYPE	調査担当者グループ、調査回答者グループ、調査評価者グループ

## 5.8 調査スケジューラー オブジェクト

[データを ARCM へ転送する] 属性が [真] に設定されている質問票テンプレートに関連付けられた調査スケジューラーは、すべての関連オブジェクトとともに ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
頻度 (タスク頻度)	AT_SURVEYTASK_FREQUENCY	○	調査が生成される頻度を定義します。
開始日	AT_SURVEYTASK_START_DATE	(○)	調査の生成を開始する日付が表示されます。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_SURVEYTASK_END_DATE		調査の生成を終了する日付が表示されます。
開始日までのオフセット	AT_SURVEYTASK_OFFSET		調査が始まる何日前に統制期間が終了するのを示すオフセット (遅延) を日単位で指定します。
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_SURVEYTASK_DURATION	(○)	調査回答者が調査を完了しなければならない日数が表示されます。期間は、調査を完了しなければならない完了日を定義します。[頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制期間の長さ	AT_SURVEYTASK_CTRL_PERIOD		統制の時間単位を指定します。
イベント駆動の調査許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVE_SURVEYS_ALLOWED		手動で作成された調査が調査スケジューラーで許可されるかどうかを示します。[頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 6 リスク マネジメントの表記規則

リスク マネジメントの目的は、組織への潜在的脅威を識別および評価することです。リスクは、企業資産に関連する可能性があります。リスク評価は、スケジュールが設定された時間に、またはイベント駆動によって自動的に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。リスクの分析とリスク評価によって、企業はアクションが必要かどうかを評価できます。リスク マネジメントの中心オブジェクトは、リスクとリスク評価です。リスク評価は、[リスク マネジメント関連] 属性に [真] が設定されているリスク評価に有効なリスクに関してのみ生成されます。

### 6.1 プロセスと企業資産

さまざまなモデル『14ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。リスクと、企業資産との関係は、[ビジネス コントロール図]『67ページ』を使用してモデル化されます。プロセスとプロセス ファンクションに影響するリスクは、プロセス階層『14ページ』に関するモデルを使用してモデル化されます。複数のプロセス ファンクションとさまざまな企業資産に同じリスクが発生する可能性があります。

### 6.2 ビジネス コントロール図

[ビジネス コントロール図] モデル (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) を使用して、担当するユーザー グループを割り当て、リスク評価に関連するオブジェクトを指定 します。これにより、どのリスクがどの組織ユニットに影響するかなど、企業資産への影響を記録できます。また、KPI 割当図を使用することもできます。

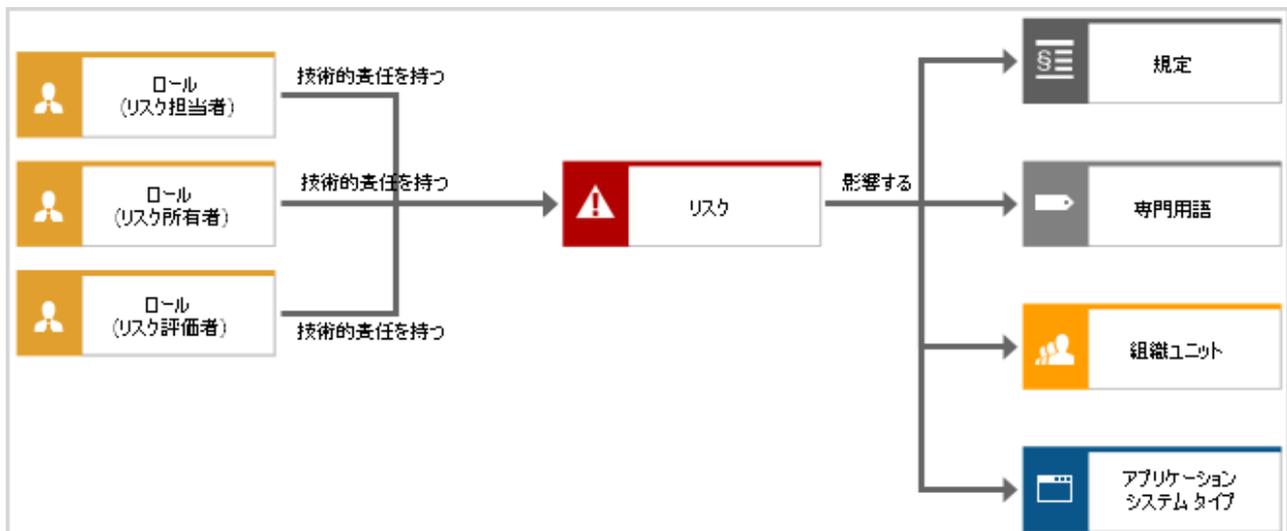


図 32: リスク マネジメント用ビジネス コントロール図の構造

### リスク オブジェクト間の属性と接続線の継承

[割り当てられている] 接続線 (CT\_IS\_ASSIG\_6) を、リスク間のオブジェクトの割り当てを継承するのに使用できます。出力接続線があるリスク オブジェクトに割り当てられたオブジェクトは、入力接続線があるリスク オブジェクトに継承されます。継承されるオブジェクト タイプは、[ファンクション]、[組織ユニット]、[アプリケーション システム タイプ]、[規定]、[リスク カテゴリ]、[ルール] のみです。オブジェクト タイプは、受信リスクと同じオブジェクト タイプとの間に直接接続線がない場合のみ、継承されます。ルールは、受信オブジェクトと同じルールとの間に直接接続線がない場合のみ、継承されます。例: リスク評価者グループは継承されますが、リスク所有者は継承されません。その理由は、受信リスクがリスク所有者グループに割り当て済みだからです。

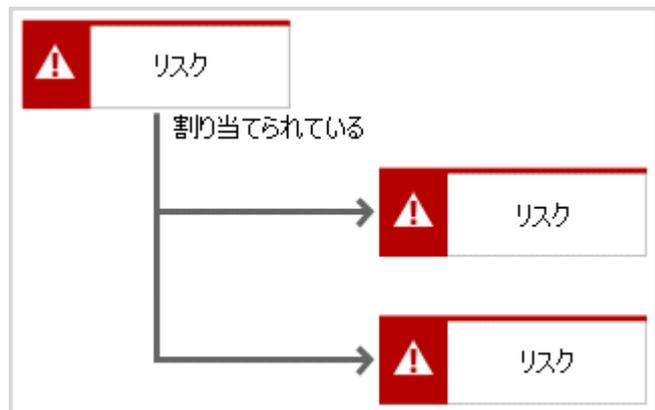


図 33: KPI 割当図 - リスク オブジェクトの継承

### リスク オブジェクトの関係

次の接続線が KPI 割当図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	技術的責任を持つ	ルール	この接続線によって、リスク所有者、リスク担当者、およびリスク評価者への関係が作成される[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合は、リスク所有者とリスク評価の割り当てが必須です。その他のすべての割り当てはオプションです。
リスク	影響する	組織ユニット/ アプリケーション システム タイプ/ 規定	この接続線によって、階層への関係が作成される。
リスク	影響する	用語	この接続線によって、標準階層への関係が作成される。[リスク タイプ] リスク属性に [財務報告] も選択されている場合は、必須の関係になる。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	割り当てられている	リスク	この接続線は、すべてのリスクに同じ規定やリスク評価者がある場合など、1つのリスクから複数のリスクへのオブジェクトアサインメントを継承するために使用されます。

### 6.3 リスクへのモデルアサインメント

次のモデルタイプは、特定のユースケースの [リスク] オブジェクトタイプにアサインできます。

ユースケース	アサインされるモデルタイプ
非常時プロセス	EPC
リスク軽減の説明	ビジネスコントロール図
リスク割り当て資産とユーザーグループ	ビジネスコントロール図 (または KPI 割り当て図)

## 6.4 リスク オブジェクト

[リスク] オブジェクト (OT\_RISK) を使用して、リスクをモデル化します。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されているリスクが ARIS Risk and Compliance へ転送されます。リスク評価は、[リスク マネジメント関連] 属性に [真] が設定されているリスク評価に有効なリスクに関してのみ生成されます。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	内部リスク ID として機能します。
リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		
主要リスク	AT_KEY_RISK		
リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_STRATEGIC		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。
説明/定義 (リスクの説明)	AT_DESC		
リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		リスクが特定のカタログまたは産業フレームワークに属するか、またはそれらから抽出されているかどうかを示します。
リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		リスクが特定のカタログまたは産業フレームワークに属するか、またはそれらから抽出されているかどうかを示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		設定されている値に応じて、ARIS Risk and Compliance で列挙が設定される。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエン트리と組み合わせで発生できない。
タイトル 1 タイトル 2 タイトル 3 タイトル 4	AT_TITL1 AT_TITL2 AT_TITL3 AT_TITL4		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 1 リンク 2 リンク 3 リンク 4	AT_EXT_1 AT_EXT_2 AT_EXT_3 AT_LINK		リンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 1 ARIS 文書格納タイトル 2 ARIS 文書格納タイトル 3 ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL1 AT_ADS_TITL2 AT_ADS_TITL3 AT_ADS_TITL4		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

データ転送に含まれる属性 リスク マネジメント関連のマークがリスクに付けられている場合のみ。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リスク マネジメント関連	AT_GRC_RISK_MANAGEMENT_RELEVANT		リスクがリスク評価を生成するかどうかを示します。
評価アクティビティ	AT_GRC_ASSESSMENT_ACTIVITIES		評価時に実行されるアクティビティを説明します。
評価の頻度 (タスク頻度)	AT_GRC_ASSESSMENT_FREQUENCY	(○)	評価を実行しなければならないインターバルを指定します。この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。
イベント駆動の評価許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_GRC_EVENT_DRIVEN_ASSESSMENTS_ALLOWED		該当するオブジェクトにアドホック評価が許可されるかどうかを指定します。[評価の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_GRC_RISK_ASSESSMENT_DURATION	(○)	リスク評価の実行期間を指定する この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。[評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
リスク評価の開始日 (開始日)	AT_GRC_START_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS	(○)	リスク評価の生成が開始される日付を指定する この属性は、[リスク マネジメント関連] 属性が「真」に設定されている場合のみ必須です。[評価の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リスク評価の終了日 (終了日)	AT_GRC_END_DATE_OF_RISK_ASSESSMENTS		リスク評価の生成が終了される日付を指定する

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 7 統制管理表記規則

統制管理の目的は、リスクを軽減する統制を特定、計画、および導入することです。統制は、タイプと効果で記述できます。手動統制の場合、統制の実行は、スケジュールが設定された時間に、またはイベント駆動によって自動的に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。統制管理の中心オブジェクトは、統制と統制の実行です。

### 7.1 プロセスと企業資産にある統制

さまざまなモデル『14ページ』を使用して、企業のプロセスと資産を記述できます。[ビジネス コントロール図]『67ページ』モデル (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) を使用して、統制とそれらの規定とプロセスとの関係をモデル化します。複数のプロセス ファンクションと企業資産に同じ統制が発生する可能性があります。

例

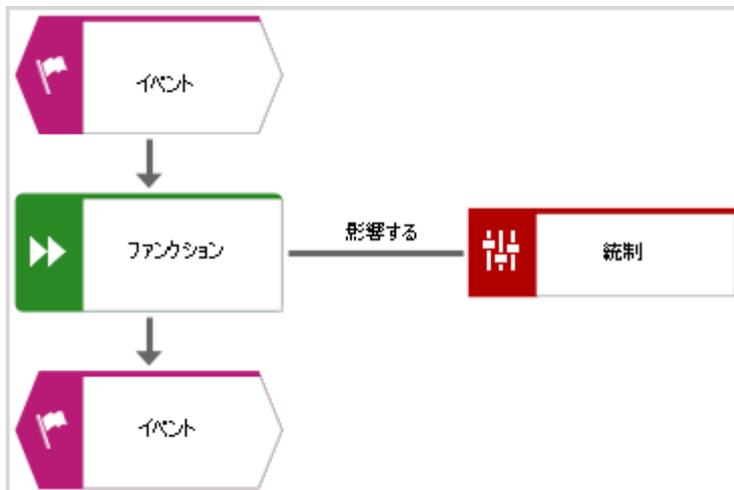


図 34: イベント駆動のプロセス連鎖 - 統制

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
統制	実行される	ファンクション	プロセス ファンクションを使用して、あるいはその内部で実行される統制が表示されます。

## 7.2 ビジネス コントロール図

[ビジネス コントロール図] モデル (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) を使用して、統制管理に関するオブジェクトと関係をモデル化します。

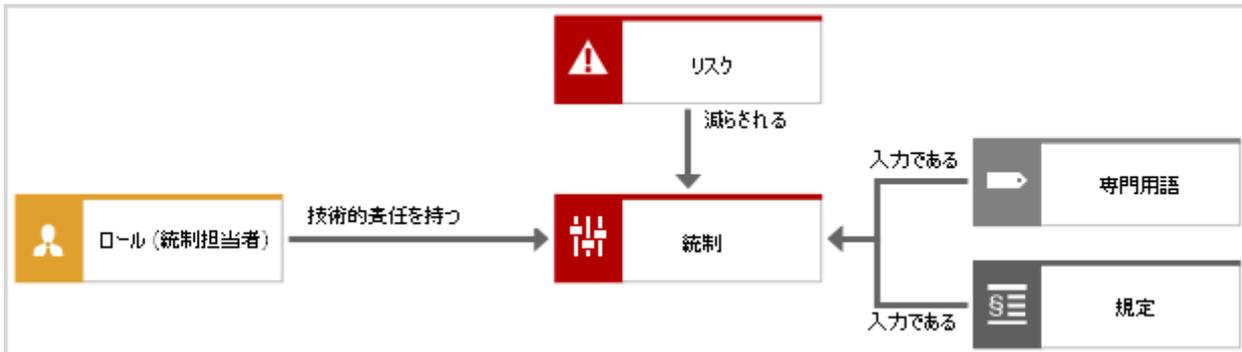


図 35: 統制管理用ビジネス コントロール図: 統制の識別と割り当て

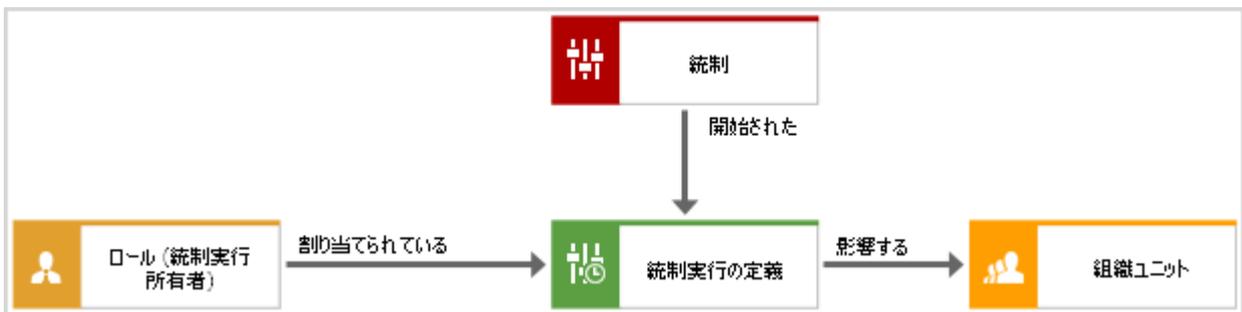


図 36: 統制管理用ビジネス コントロール図: 統制の実行準備

次のオブジェクトと、オブジェクト間の関係が使用されます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
統制	減らされる	リスク	
統制	技術的責任を持つ	ロール	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される。
統制	入力である	規定/ 規定の章/ 規定の条項	
統制	影響する/ 入力である	用語	
統制	開始される	統制実行の定義	統制実行の定義は、統制実行記録の説明に使用されます。たとえば、記録アクティビティ、頻度、結果形式を指定します。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
統制実行の定義	影響する	組織ユニット	記録の影響を受ける組織ユニットを割り当てます。組織ユニットの割り当ては必須です。
ロール	割り当てられている	統制実行の定義	この接続線によって、統制実行所有者グループへの関係が作成されます。統制実行所有者の割り当ては必須です。

## 7.3 統制オブジェクト

[ファンクション] (OT\_FUNC) と [統制] デフォルト シンボル (ST\_CONTR) を統制に使用します。[データを ARCM へ転送する] 属性に [真] が設定されている統制が ARIS Risk and Compliance へ転送されます。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明	AT_DESC		
統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		
統制の頻度 (統制の頻度 (目標))	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY		
コントロール タイプ	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。
統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT		
内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY		
統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		
キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL		
アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_PRESENTATION_DISCLOSURE AT_AAM_ASSERTIONS_NA		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。値の依存性が存在する。最初の 5 つの値は、最後のエントリと組み合わせで発生できない。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 7.4 統制実行の定義オブジェクト

[統制実行の定義] オブジェクト (OT\_CTRL\_EXECUTION\_TASK) を使用して、統制の実行をモデル化します。[データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定した統制に割り当てられている統制の実行、あるいは [データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定したリスクに接続されている統制に割り当てられている統制の実行が ARIS Risk and Compliance に転送されます。統制検査の定義は、統制に対して一意である必要があります。つまり、統制検査の定義に接続できる統制は 1 つのみです。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
統制記録アクティビティ (アクティビティ)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DOC		統制実行の記録に必要なアクティビティを記述します。
選択	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_SELECTIVITY		実行される記録の範囲 (完全な記録、サンプル、サンプル %、サンプル数) を示します。
結果形式	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_RESULT_FORMAT		計算結果の形式を示します。
統制記録の頻度 (タスク頻度)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_FREQUENCY	○	統制実行が記録される間隔を示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
イベント駆動の統制記録許可 (イベント駆動のタスク許可)	AT_EVENT_DRIVEN_CTRL_EXECUTION_ALLOWED		統制記録の手動作成が許可されているかどうかを示します。[統制記録の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。
統制実行記録の期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_DURATION	(○)	統制実行所有者が統制実行記録を使用できる日数を示します。この期間が、統制実行記録を完了しなければならない日付を決定します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
開始日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_START_DATE	(○)	統制実行の記録の開始日を示します。[統制記録の頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
終了日	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_END_DATE		統制実行の記録の終了日を示します。
記録期間の長さ	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_CTRL_PERIOD	○	統制実行が記録される期間を指定します。
開始日までのオフセット	AT_CTRL_EXECUTION_TASK_OFFSET		記録作成期間に先行する記録を作成した期間の日数を示します。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 8 検査管理表記規則

検査管理の目的は、既存の統制の検査を識別、計画、トリガーすることです。検査活動は、[統制検査の定義] オブジェクトのタイプと効果で記述できます。手動統制の場合、統制検査は、スケジュールが設定された時間に、またはイベント駆動によって自動的に生成されます。担当者は、実行する必要があるアクティビティに関する情報とともにタスクを受け取ります。検査管理の中心オブジェクトは、統制と統制検査の定義です。

### 8.1 ビジネス コントロール図

[ビジネス コントロール図] モデル (MT\_BUSY\_CONTR\_DGM) を使用して、担当するユーザー グループを割り当て、リスクとその統制に関する統制検査の定義を指定します。

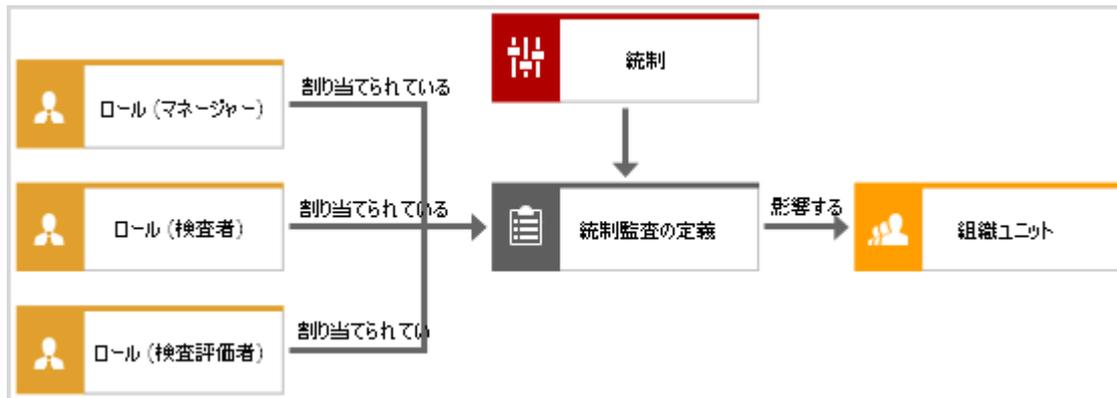


図 37: 検査管理用ビジネス コントロール図

#### オブジェクト間の関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
統制	監視される	統制検査の定義	この接続線によって、統制検査の定義への関係が作成される。
統制検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、影響を受ける組織ユニットへの関係が作成される。
統制検査の定義	割り当てられている	ロール	この接続線によって、検査者、検査評価者および検査担当者への関係が作成される。検査者グループと検査評価者グループの割り当ては、必須です。

## 8.2 統制オブジェクト

詳細については、統制オブジェクト『78ページ』を参照してください。

## 8.3 統制検査の定義オブジェクト

[統制検査の定義] オブジェクト (OT\_TEST\_DEFINITION) を使用して、統制検査の定義をモデル化します。[データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定した統制に割り当てられている統制検査の定義、あるいは [データを ARCM へ転送する] 属性を [真] に設定したリスクに接続されている統制に割り当てられている統制検査の定義が ARIS Risk and Compliance に転送されます。統制検査の定義は、統制に対して一意である必要があります。つまり、統制検査の定義に接続できる統制は 1 つのみです。

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY		
検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMANCE		値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。
検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	値が「真」に設定されていると、ARIS Risk and Compliance で列挙を使用できます。
検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
イベント駆動の統制検査許可 (イベント駆動のタスク許可))	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED		手動で作成された統制検査が統制検査の定義で許可されるかどうかを示します。[検査の頻度] 属性が [場合に応じる] に設定されている場合は、ARIS から ARIS Risk and Compliance への転送時に自動的に [真] に設定されます。
検査の頻度 (タスク頻度)	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	
実行期限 (単位: 日) (タスク処理の実行期限)	AT_AAM_TEST_DURATION	(○)	[タスク頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制検査の定義の開始日 (開始日)	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	(○)	[タスク頻度] 属性の値が [場合に応じる] の場合、この属性は必須ではありません。
統制検査の定義の終了日 (終了日)	AT_AAM_TESTDEF_END_DATE		
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
開始日までのオフセット	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET		詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_FOLLOWUP		詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 8.4 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動の統制検査許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。さらに、年内にシステムによって統制検査が生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [タスク頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

## 9 サインオフ管理の表記規則

サインオフは、個別の階層要素の統制検査の結果を評価し、上位の階層レベルの結果に集約するために使用される複数レベルの評価プロセスです。ボトムアップ アプローチでさまざまな階層レベルを通過します。評価は、特定の統制期間内に実行された統制検査の結果に基づきます。これらの統制検査は、[リスク]、[統制]、および [統制検査の定義] の基礎要素に基づいています。

サインオフは、階層要素のタイプ ([プロセスとファンクション]、[規定と標準]、[組織] または [検査者]) に基づくことができます。対応する階層要素がリスクまたは統制を経由して統制検査の定義に関連している場合のみ、不備と課題、統制検査がサインオフに表示されます。

### 例

リスクが [組織] 階層要素に割り当てられ、統制を経由して統制検査の定義に割り当てられています。この場合、[組織] 階層タイプは、サインオフにあるこの統制検査の定義の統制検査、および不備と課題を表示するサインオフのみに使用されなければなりません。

階層要素は、[サインオフ関連] 属性 (AT\_AAM\_SIGN\_OFF\_RELEVANT) に [真] が設定され、サインオフ ユーザー グループがこの階層要素か、関連する階層の上位階層要素に割り当てられている場合のみに、サインオフに含まれます。

サインオフ内で、評価は最下位から最上位の階層レベルまで実行されます。上位レベルの階層要素の評価は、下位の階層要素がすべて評価されたあとでのみ実行されます。サインオフ所有者がサインオフの下位階層要素に割り当てられていない場合、これらの下位階層要素は、システムにより自動的にリリースされ処理されます。

## 9.1 プロセス階層を使用するサインオフ

プロセス階層に基づくサインオフの場合、ファンクションとサインオフ所有者グループ（ロール） の間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ（ユーザー グループ） とプロセス階層要素間の関係が作成されます。

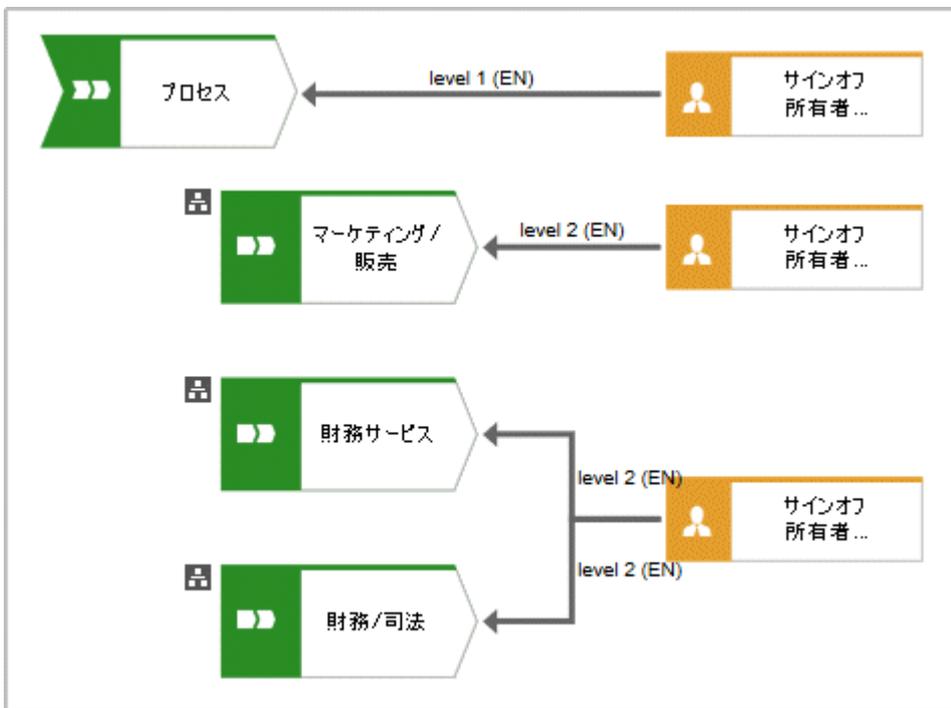


図 38: ファンクションの割り当て - サインオフ所有者グループ

## 9.2 規定と標準の階層を使用するサインオフ

規定と標準の階層に基づくサインオフの場合、規定とサインオフ所有者グループとの関係は、ファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

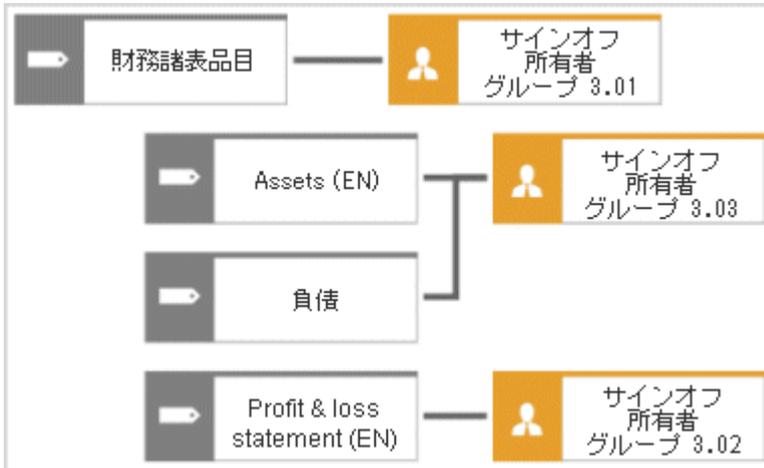


図 39: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て

## 9.3 組織階層を使用するサインオフ

組織階層に基づくサインオフの場合、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係は、企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

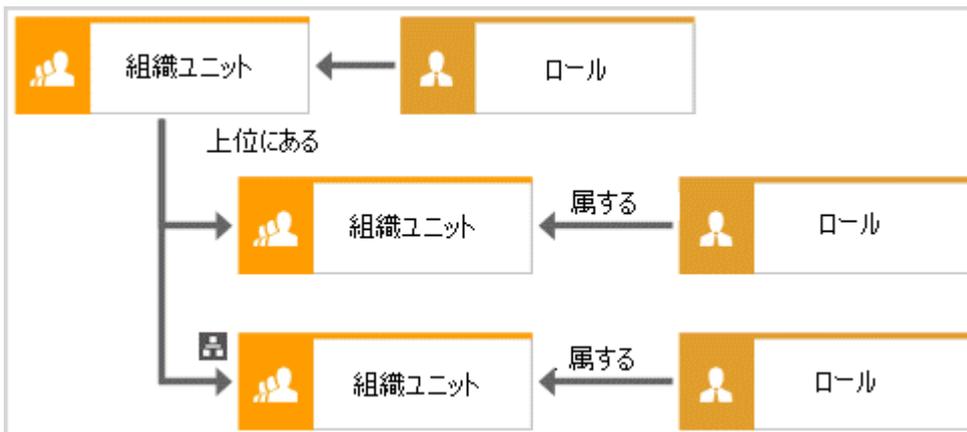


図 40: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ

## 9.4 検査者組織を使用するサインオフ

検査者組織に基づくサインオフの場合、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係は、検査者組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。

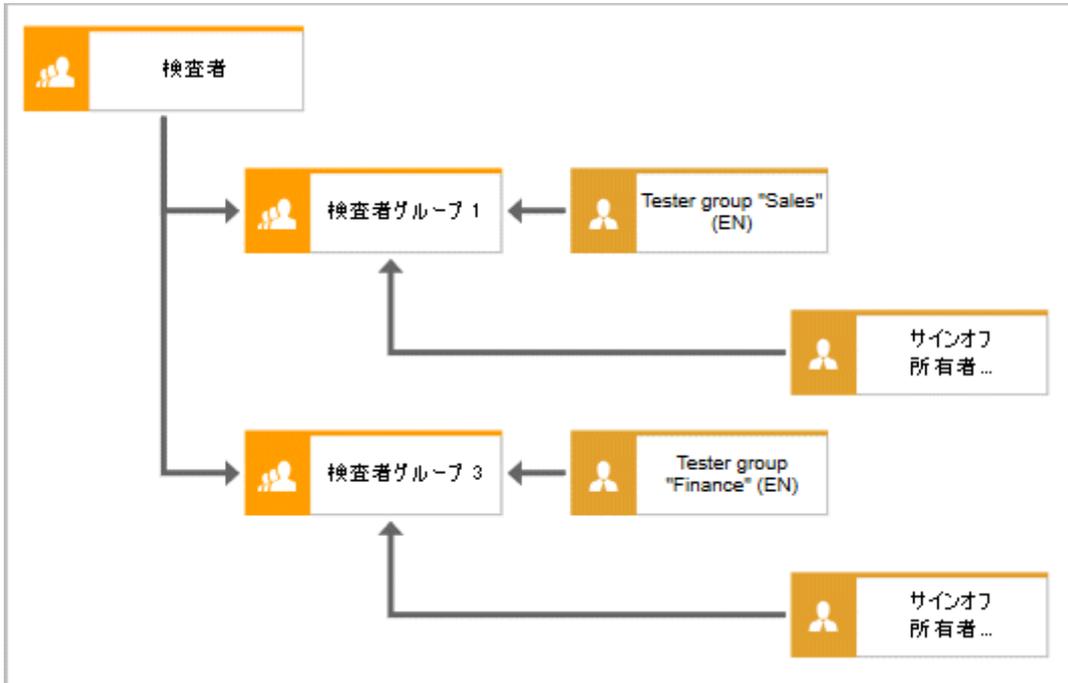


図 41: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループの割り当て

## 10 監査管理表記規則

監査管理の目的は、企業監査全体のコンテキストで、監査を準備、計画、実行、監視、報告することです。監査全体のコンテキストでは、すべての監査を時系列で詳しく記述します。これは、複数年にわたる監査計画になる可能性があります。各監査は、個別の監査タスクを調整するために時系列の構成になります。マスター データの管理を簡易化するために ARIS モデリング環境で監査テンプレートをモデル化できます。これにより、後日、類似の監査を実行する際に監査テンプレートを再利用できます。

### 10.1 プロセス スケジュール モデル (監査テンプレート)

これには、[プロジェクト スケジュール] モデル (MT\_PROJECT\_SCHEDULE) を使用できます。



図 42: プロセス スケジュール モデル - 監査テンプレート

#### 監査管理用のプロジェクト スケジュール モデルの準備

行/列のプロパティは、属性ベースのモデル化のために指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択します。



図 43: [属性ベースのモデリング] を開く

以下のアイテムを編集します。

位置の属性: 開始日 (AT\_DATE\_START)

次元の属性: 最大合計時間 (AT\_MAX\_TL\_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元の両方を [プロジェクト] オブジェクトに許可する必要があります。監査プロジェクト テンプレートは、[関係] 行内の [プロジェクト] オブジェクトを使用してモデル化します。[クオリティ ゲート] 行は、監査プロジェクト テンプレートに必須ではありません。



図 44: [属性ベースの モデリング] ダイアログ ボックス

監査用の [プロジェクト スケジュール] モデルで使用できるオブジェクト

オブジェクトタイプ名	API 名	ARCM 名
タスク	OT_FUNC_INST	監査テンプレート
ロール	OT_PERS_TYPE	監査所有者、監査評価者、監査監査者 (選択したロールによる)

接続線

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (プロジェクト)	実行される	ロール	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。

## 10.2 監査テンプレートとしてのタスク オブジェクト

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
開始日 (監査期間 (計画))	AT_DATE_START	○	監査の開始日。関係者全員にタスクに関する通知が送られます。
最大合計時間 (監査期間 (計画))	AT_MAX_TL_TIME	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
監査クライアント	AT_AUDIT_CLIENT		監査をリクエストする組織または要員。
データを ARCM へ転送する	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT		監査テンプレートが ARIS Risk and Compliance に転送されるかどうかを指定します。
監査の目標	AT_AUDIT_OBJECTIVE		監査の目標の定義。
監査準備の開始日 (準備の開始日)	AT_START_DATE_OF_AUDIT_PREPARATION	○	準備段階の開始日。監査が生成されます。監査準備の開始日は、監査の開始日より前に発生する必要があります。
統制期間の開始日 (統制期間)	AT_START_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	○	監査を実施する統制期間の開始日。
統制期間の終了日 (統制期間)	AT_END_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	○	監査を実施する統制期間の終了日。

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 10.3 プロセス スケジュール モデル (監査手順テンプレート)

[プロジェクト スケジュール] タイプ (MT\_PROJECT\_SCHEDULE) のモデルを監査テンプレート (タスク (プロジェクト)) に割り当てて、監査の監査手順を定義できます。



図 45: プロセス スケジュール モデル - 監査手順テンプレート

#### 監査管理用のプロジェクト スケジュール モデルの準備

行/列のプロパティは、属性ベースのモデル化のために指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択します。



図 46: [属性ベースのモデリング] を開く

以下のアイテムを編集します。

位置の属性: 開始日 (AT\_DATE\_START)

次元の属性: 最大合計時間 (AT\_MAX\_TL\_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元の両方を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。監査手順プロジェクト テンプレートは、[関係] 行内の [タスク] オブジェクトを使用してモデル化します。[クオリティ ゲート] 行は、監査プロジェクト テンプレートに必須ではありません。



図 47: [属性ベースの モデリング] ダイアログ ボックス

プロジェクト スケジュール モデルで使用できるオブジェクト

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
タスク	OT_FUNC_INST	監査手順テンプレート
ロール	OT_PERS_TYPE	監査手順所有者

接続線 (監査手順)

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (タスク)	実行される	ロール	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。
タスク (タスク)	属する	タスク (タスク)	上位のタスクを定義します。

## 10.4 タスク オブジェクト (監査手順テンプレート)

### データ転送に含まれる属性

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
名前	AT_NAME	○	
説明/定義	AT_DESC		
開始日 (監査手順期間 (計画))	AT_DATE_START	○	監査手順の計画された開始日。
最大合計時間 (監査手順期間 (計画))	AT_MAX_TL_TIME	○	関連する監査手順テンプレートの最大合計時間は、監査テンプレートのプロジェクトの終了日を過ぎてはいけません。
週末休み	AT_WEEKEND_OFF		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
目標処理時間 (処理時間 (計画))	AT_DES_PROC_TIME	○	監査手順の実行に計画された期間
監査手順タイプ	AT_AUDIT_STEP_TYPE		<p>監査手順の次のタスク タイプを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ロジスティクス タスク</li> <li>▪ 監査タスクのテーマ</li> </ul>

ARIS 属性 (異なる ARCM 属性)	API 名	M*	注意
タイトル 1	AT_TITL1		リンクされている文書のタイトルを示します。
タイトル 2	AT_TITL2		
タイトル 3	AT_TITL3		
タイトル 4	AT_TITL4		
リンク 1	AT_EXT_1		リンクされている文書のタイトルを示します。
リンク 2	AT_EXT_2		
リンク 3	AT_EXT_3		
リンク 4	AT_LINK		
ARIS 文書格納タイトル 1	AT_ADS_TITL1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納タイトル 2	AT_ADS_TITL2		
ARIS 文書格納タイトル 3	AT_ADS_TITL3		
ARIS 文書格納タイトル 4	AT_ADS_TITL4		
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1		ARIS 文書格納でリンクされている文書のタイトルを示します。
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2		
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3		
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4		

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 10.5 タスク割当図

監査または監査手順の範囲を定義するには、[タスク割当図] (MT\_FUNC\_ALLOC\_DGM\_INST) を使用できます。選択した範囲にしたがって、統制検査やリスク評価の関係する要素（定義された統制期間でフィルター）が ARIS Risk and Compliance で割り当てられている監査/監査手順に表示されます。

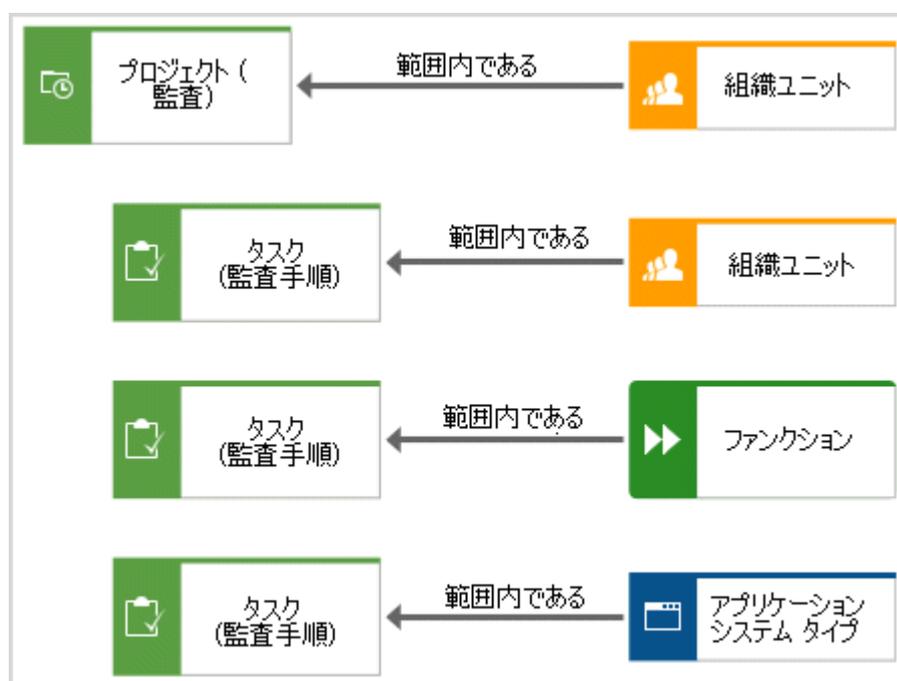


図 48: タスク割当図

### タスク割当図で利用できるオブジェクトと名前 (範囲)

オブジェクト タイプ名	API 名	ARCM 名
タスク	OT_FUNC_INST	監査/監査手順
リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY	リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE	アプリケーション システム タイプ
ファンクション	OT_FUNC	プロセス
組織ユニット	OT_ORG_UNIT	組織
用語	OT_TECH_TRM	標準

接続線

オブジェクト	接続線	オブジェクト
リスク カテゴリ	範囲内である	タスク
アプリケーション システム タイプ	範囲内である	タスク
ファンクション	範囲内である	タスク
組織ユニット	範囲内である	タスク
用語	範囲内である	タスク

各監査/監査手順には [範囲内である] タイプの接続線は 1 本のみ使用できます。

## 11 用語集

用語集には基本用語の説明が記載されています。

### ARIS モデリング環境

ARIS モデリング環境は、企業規模のプロセス アーキテクチャをモデル化できるアプリケーションの領域です。ARIS モデリング環境は、自動モデリング機能を使用してプロセスを素早くモデル化するのに役立ち、ほかの ARIS アプリケーションでデータを使用できます。たとえば、ARIS Architect、ARIS、ARIS Advanced に ARIS モデリング環境が用意されています。

### ARIS リポジトリ

ARIS リポジトリは、ARIS に使用されるすべてのデータが保存される保管場所です。リポジトリは、さまざまなデータベースを含むことができます。リポジトリのすべてのデータは ARIS 製品によって使用できます。これは、冗長なデータが保存されず、入力されたデータはさまざまな側面で再使用でき、すべての ARIS 製品が同じ基本データを使用でき、ARIS 製品の機能がシームレスに使用できることを保証します。

### アサーション

アサーションは検証に関連する文言で、たとえば、会計項目の正確性または網羅性に関連します。企業の会計構造（貸借対照表と損益計算書）に関連するアサーションは、規定と標準の階層で定義されます。リスクに対して該当する文言を定義するには、[アサーション] 属性を使用して 1 つまたは複数の値を選択します。

以下のアサーションを使用できます。

- **実在性**
- **網羅性**
- **権利と義務の帰属**
- **評価と期間配分の妥当性**
- **表示の妥当性**

### 監査準備

監査テンプレートが転送または作成されたあと、監査準備が開始されます。この段階で、監査所有者は監査および監査手順のさまざまな属性を編集できます（監査範囲の詳細の記述など）。監査手順を追加することもできます。監査所有者がテンプレートのステータスを [リリース済み] に設定すると、準備が終了します。割り当てられた監査手順のステータスも [リリース済み] になります。監査手順所有者には、新しい監査手順が存在することが電子メールで通知されます。

## 統制期間

統制期間は、現在の調査、統制検査、サインオフ、監査の対象となる期間を指定します。つまり、確認すべきアクティビティが発生する期間になります。統制期間の長さは時間単位（月、四半期、年など）を指定します。

統制検査の例:

統制が検査される場合、統制検査は統制の実行が確認されなければならない期間 (= 統制期間) を指定します。統制期間のほかに、統制検査を実行する期間 (= 検査期間) があります。これらの期間は互いに関連しません。

## 内部統制の構成要素

COSO: トレッドウェイ委員会組織委員会の略称 (**C**ommittee of **S**ponsoring **O**rganizations of the **T**readway Commission)

この委員会は、次の分野における企業が満たすべき要件を規定し、不正な財務報告を防止することを目的としています。検査の仕様は内部統制の構成要素に従って分類することができます。

- 統制環境
- リスク評価
- 統制活動
- 情報と伝達
- モニタリング

## 信用デフォルト

信用リスクに関連してオペレーショナル リスクによって発生した損失を特定し、損失データベースに運用リスクとして記録し、明示的に示す必要があります（信用リスク領域の信用デフォルト）。このような損失は、オペレーショナル リスクの対象とする金額の計算には使用されません。

## 不備

統制の設計または実行によってプロセス目標の達成やプロセス リスクの補完を保証できない場合は、不備 (= 統制の不備) が存在します。

## 直接損失

直接損失は、問題解決と損害修復に関連するコストです。火災にあった工場と機械の再建築など、固定資産の回復コストの大部分を占めます。

## 二重統制

二重統制とは、1 人で重要な決定を下したり、1 人で重要なタスクを編集および評価したりしないようにすることで、二重統制は、義務の分離や 4 つの目の原則などとしても知られています。

## 4 つの目の原則

「二重統制」を参照。

### インシデント

インシデントは、損失のトリガーです。

### 間接損失

間接損失は、損害を発生するインシデントの結果として生じるコストです。たとえば、火災による生産停止のコスト、契約した納期を守らなかったことによる違約金などです。

### 課題管理

全体の課題管理では、複数のコンテキストにわたる課題で結合されるリスク、統制、方針などのプロセスとオブジェクトが有効になり、さまざまな状況や割り当てられたタスクを参照できます。

不備とは異なり、課題は、ビジネス環境で一回だけ発生する問題です。課題管理を使用すると、危機を回避する目的で、識別された課題を記録、分析、監視することができます。目標は、課題を事前に認識して、解決することです。

### 損失

損失は、インシデントの結果です。

### ヒヤリハット

ヒヤリハットは、気付くのが早かったために損失を回避できたインシデントです。ヒヤリハットは、望ましくない結果を招きますが、特定のケースで発生しなかったすべてのインシデントです。

### 引当金

損失引当金は、年度初めに保険会社の経営陣が、会社の新旧クレームの支払に対して固定した金額です。

### 義務の分離

「二重統制」を参照。

### サインオフ

サインオフは、さまざまな階層（プロセス、組織、規定、または検査者組織）と関連付けることができる複数レベルのリリース プロセスです。分析対象の統制期間および階層要素について、サインオフ担当者は内部統制システムの有効性の評価を提出する必要があります。リリースは、統制期間に実行された統制検査、および関連する不備に関係します。

## サインオフ期間

サインオフ所有者がサインオフを完了するための期間です。サインオフは特定の統制期間に関連付けられています。

## 調査期間

調査回答者が質問票に回答するための期間です。通常は統制期間のあとに来ます。

## 整備状況の有効性テスト

統制が適切に設計され、目的を遂行するかどうかを確認するのに使用される検査タイプです。

## 運用状況の有効性テスト

統制が実際に有効かどうかを確認するのに使用される検査タイプです。

## 検査期間

検査者が検査を実行できる期間です。タスク頻度（単発、日次、週次、月次、四半期、半期、年次）、はじめて統制検査が生成された日付、および検査期間（タスク処理の期限）から計算されます。

## 12 法的情報

### 12.1 ドキュメンテーションの範囲

記載情報は、公開時点における設定および機能についての説明です。文書とソフトウェアは生産サイクルが異なるため、設定および機能の説明は実際の設定および機能と異なる場合があります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みにになり、その情報を考慮に入れた上で、製品をインストール、設定およびご使用ください。

Software AG によって提供されるコンサルティング サービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオのみしか記述できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS クライアント	ARIS Server を介して共有データベースにアクセスする ARIS Architect または ARIS Designer などのすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザを使用してアクセスできる ARIS クライアントを指します。